

市原市^{しん でん}新殿古墳群

2010

株式会社ライフ
市原市教育委員会

序 文

市原市は千葉県の中央部に位置し、「王賜」銘鉄剣や上総国分僧寺・国分尼寺に代表される埋蔵文化財の宝庫として知られています。

今回報告する「新殿古墳群」は、宅地造成工事に先立ち調査が実施され、その調査成果をまとめたものであります。

本報告書の内容で特筆すべきことは、縄蓆文が施された韓式系土器注口付壺が検出されたことです。周囲の山倉1号墳からは、渡来人の服装と想定される筒袖表現の人物埴輪が検出されていることから、周辺地域は太古の昔、渡来人との関連があった地なのかもしれません。

本書が、学術的な資料としてはもとより、広く市民の皆様に活用していただけることを期待しています。

最後に、発掘調査から整理報告にいたるまで多大なご協力をいただきました関係各位に厚く御礼申し上げます。

平成22年2月

市原市教育委員会
教育長 山崎正夫

例 言

1. 本書は、宅地造成事業に先行して実施した埋蔵文化財発掘調査の調査報告書である。
2. 本書に所収したのは以下の遺跡である。
新殿古墳群・海土遺跡群 市原市海土有木字司馬農1668 - 2 他地先 市原市埋蔵文化財分布地図遺跡番号576の海土遺跡群の極一部、および609の新殿古墳群3基中の2基である。発掘届等は、海土遺跡群（司馬農地区）で提出してきていたが、整理作業の結果、検出遺構は古墳が主体なことから、報告書名は新殿古墳群とした。
3. 発掘調査は、千葉県教育委員会の指導のもと、平成20年8月19日に開始し同年9月12日に終了した。調査面積は1,120㎡であり、担当は北見一弘である。
4. 整理・報告事業は平成21年7月1日～同年8月31日まで、市原市教育委員会埋蔵文化財調査センターで実施し、担当は木對和紀である。
5. 本書の原稿執筆は木對和紀が行った。
6. 遺構番号は調査時点でそれぞれ割り振られていたが、整理作業に伴い新規に振りなおした。その対照については、新旧番号一覧表に示している。
7. 平面図と土層断面図の「K」は攪乱を表している。

凡 例

1. 本書で示す北は座標北である。また、水準は海拔からの高さを示す。
2. 本書で使用した国土地理院発行の地図は、1:25,000 姉崎・海土有木である。
3. 本書掲載の遺構縮尺は、古墳・方形周溝墓・住居跡等 1:80 を原則とした。ただし遺物出土状況等、更に詳細図が必要と判断された遺構については、適時縮尺を変え掲載した。遺物は、土器類 1:4、土器断面・石器 1:3、鉄器 1:2、石鏃 1:1 とした。拓影図は 1:3 である。
4. 土器の器面色調については、小山正忠・竹原秀雄『新版標準土色帖 2001年度版』日本色研事業株式会社発行による。
5. 挿図におけるスクリントーンの利用については下記によるか、または図中に示した。

遺構



道路・遺構復元



包含層・法面

遺物



赤彩



割れ口



断面

本文目次

序文	2号遺構(円墳)……………	4
例言	3号遺構(縄文早期遺物包含層)……………	9
凡例	4号遺構(方墳)……………	9
序説……………	5号遺構(方墳)……………	12
1. 調査に至る経緯……………	6号遺構(竪穴住居跡)……………	12
2. 遺跡の位置……………	7号遺構(方形周溝墓)……………	12
3. 整理の方法……………	遺跡一括……………	15
遺構と遺物……………	まとめ……………	15
1号遺構(前方後円墳)……………	報告書抄録……………	巻末

挿図目次

第1図 新殿古墳群と周辺遺跡(1/50,000)……………	2	第8図 4号遺構実測図・	
第2図 新殿古墳群周辺地形図(1/5,000)……………	2	4号遺構出土遺物実測図……………	10
第3図 新殿古墳群全体図(1/500)……………	3	第9図 5号遺構実測図・	
第4図 1号遺構実測図・		4~5号遺構出土遺物実測図……………	11
1号遺構出土遺物実測図……………	5	第10図 6号遺構実測図・	
第5図 1号遺構出土遺物実測図……………	6	6号遺構出土遺物実測図……………	13
第6図 2号遺構実測図・		第11図 7号遺構実測図・	
2号遺構出土遺物実測図……………	7	7号~遺跡一括出土遺物実測図……………	14
第7図 2~3号遺構出土遺物実測図……………	8		

表目次

第1表 新殿古墳群新旧番号一覧表……………	目次裏	第4表 新殿古墳群出土金属器等観察表……………	20
第2表 新殿古墳群遺物集計表……………	目次裏	第5表 新殿古墳群出土石器 etc 観察表……………	21
第3表 新殿古墳群出土土器観察表……………	16		

写真図版目次

図版1 1号前方部前面周溝検出状況(南より)		5号東側周溝完掘状況(西より)	
1号前方部前面周溝完掘状況(西より)		5号遺構AA'土層断面(西より)	
1号AA'土層断面(南より)		図版3 4・6号遺物出土状況(南より)	
1号遺物出土状況(東より)		6号遺物出土状況1(南より)	
2号墳全景(東より)		6号遺物出土状況2(南より)	
2号AA'土層断面(南より)		作業風景(東より)	
2号周溝内土壌検出状況及び遺物出土状況(南より)		7号方形周溝墓遺物出土状況1(北より)	
2号周溝内土壌遺物出土状況拡大(南より)		7号方形周溝墓遺物出土状況2(北より)	
		7号方形周溝墓遺物出土状況3(北より)	
		7号方形周溝墓遺物完掘状況(東より)	
図版2 4号南側周溝遺物出土状況1(東より)		図版4 1-1, 2, 7~41, 50, 4-1, 3, 5, 6-1, 7-1, 一括-2	
4号平瓶口縁部出土状況2(南より)		図版5 1-43~45, 2-2~16, 3-1~20, 4-2, 4, 6~21, 5-1, 6-2~4, 7-2, 一括-1, 3, 4	
4号韓式系土器注口付壺出土状況拡大(南西より)		図版6 1-46~49, 51, 2-17~23, 3-21~22, 4-22~24, 一括-5~7	
5号南側周溝BB'土層断面(南より)			
4号遺構完掘状況(東より)			

第1表 新殿古墳群新旧番号一覧表

新遺構旧遺構	時期	性格	規模	周溝	備考
1	SM-1	古墳後期 前方後円墳		西側周溝 幅 3.15 ~ 3.62m 深さ 27.5 ~ 55.4cm 残存長 18.10m	新殿3号墳 分布地図上では全長20.30m、前方部高2.20m、後円部高2.30mの前方後円墳とされる。
2	SM-2	古墳終末期 円墳	円台部径(東西) 18.90m	東側周溝 幅 1.95 ~ 2.45m 深さ 22.7 ~ 58.7cm 西側周溝 幅 2.20 ~ 2.30m 深さ 34.2 ~ 41.4cm	新殿2号墳 分布地図上では径8.0m、高さ1.70mの円墳とされる。周溝内土壌は長径4.10m、短径1.40m、深さは周溝底より7.0 ~ 17.3cm。またP1は周溝内土壌底より深さ44.9cm、P2は14.6cmを測る。
3	包含層	縄文早期	8.7m(東西) × 6.3m(南北)		厚さ10cm前後
4	SM-4	古墳終末期 方墳		東側周溝 幅 1.00 ~ 1.28m 深さ 10.9 ~ 22.8cm 残存長 5.20m 南側周溝 幅 0.93 ~ 1.45m 深さ 14.4 ~ 33.1cm 残存長 7.50m	
5	SM-3	方墳		西側周溝 幅 1.85 ~ 2.35m 深さ 0.81 ~ 1.10m 残存長 7.10m	
6	SI-1	宮ノ台 住居跡	推定長径 7.80m 推定短径 7.40m	東側壁高 7.9cm	P1 23.8cm P2 26.7cm P3 貯蔵穴 幅1.50m、深さ64.5cm
7	SS-1	久ヶ原 方形周溝墓		南側周溝 幅 1.20m 深さ 50.0cm前後 北側周溝 幅 1.20 ~ 1.14m 深さ 46.0cm ~ 55.0cm	

第2表 新殿古墳群遺物集計表

新番号	旧番号	性格	土師器量	須恵器量	弥生土器量	早期弥生系土器量	早期須恵系土器量	早期土器量	前期織維量	前期諸機量	その他縄文量	重近世土器量	中近世陶器量	土製品量	土器合計量	重土器合計量	燧石量	燧石器量	剥片量	重量	焼燧石量	燧石器量	燧石器合計量	重量	金重量	
1	SM-1	前方後円墳	7 1280	14 418.0	309 2248.0																					
2	SM-2	円墳	13 700	6 930.3	79 404.3																					
3	SM-2下層	包含層	14 173.2	12 226.2	9 72.8	1 13.8	44 540.6																			
4	SM-4	方墳	7 161.0	14 3534.0	61 407.0																					
5	SM-3	方墳	3 260		4 21.2																					
6	SI-1	住居跡			23 1293.7																					
7	SS-1	方形周溝墓			7 10710.0																					
一括	SD-1-3.5.6	攪乱	1 6.8		15 117.2																					
一括	縄文包含層表層	縄文包含層			1 32.0	15 93.0																				
合計			45 565.0	47 5140.5	522 15367.2	1 13.8	296 3025.7	9 204.7	1 16.0	23 441.5	5 117.8	6 107.0	1 3.1	956 25002.3	118 3716.2	1364 40590.7	170 122.4	45 2310.5	1697 46739.8	2 7.7						

序 説

1．調査に至る経緯

今回の発掘調査は、千葉県市原市海士有木地先における宅地造成工事に先行して実施したものである。造成工事に先がけ、平成20年6月20日付で株式会社ライフより、埋蔵文化財発掘調査の届け出が、千葉県教育委員会教育長および市原市教育委員会教育長宛てに提出された。

これを受け、千葉県教育庁文化課・市原市教育委員会ふるさと文化課・株式会社ライフの三者による協議の結果、事業地内における埋蔵文化財については記録保存とする方針が決定した。

発掘調査は、1,120㎡を対象とした本調査となり、千葉県教育委員会の指導のもと市原市埋蔵文化財調査センターが実施し、平成20年8月18日に開始し、9月12日に終了した。

2．遺跡の位置

遺跡は養老川中流域右岸の標高20m前後の台地先端部に位置し、市原市埋蔵文化財分布地図上、広義の海士遺跡群中に存在する新殿古墳群中の2・3号墳の位置する範囲が該当する。遺跡西側の前面を走る国道297号沿いに300m程北上した地点には、人物埴輪で著名な山倉1号墳⁽¹⁾が存在し、また、調査区東端から東へ20mの地点には、今回の調査から漏れた全長30mの前方後円墳である新殿1号墳が後円部を大きく削平されて残存しており、周辺の遺跡は危機的状況にある。今回の調査地点から、さらに東に200mの地点の海士遺跡群三入道地区⁽²⁾からは、二重口縁壺を検出する径15mの方墳や弥生時代の住居跡等も検出されており、調査事例は少ないものの、比較的濃密な遺構分布を見る。

当域を国分寺台地区と比較すると、比較的古墳密度は薄い地域でもあるが、今回の調査範囲地点を含めた限られた地域は、発掘調査成果からすれば、小規模な調査範囲ながら比較的濃密な古墳群を形成しており、周囲には分布地図から漏れた古墳が多数存在していることを暗示していることが注目されよう。

3．整理の方法

検出された遺物は整理作業の過程において、遺構ごとに種別及び総数と総重量の把握に努めた。その結果、総数956点、重量にして25,002.3gの土器片と1,697点46,739.8gの礫・石器を検出し、詳細については第1表にまとめた。大型壺の検出もあってか、522点15,367.2gの弥生土器が最も多く出土した遺物であり、以下47点5,140.5gの須恵器、296点3,025.7gの早期条痕文系土器がそれに続いている。また、礫は被熱を帯びたものが圧倒的に多く、遺構としては残存しなかったが、包含層中の縄文早期条痕文系土器と共に、集石遺構を形成していたものと推定された。

文献等

(1) 小橋健二『山倉古墳群』上総国分寺台遺跡調査報告 (財)市原市文化財センター 市原市教育委員会 2004

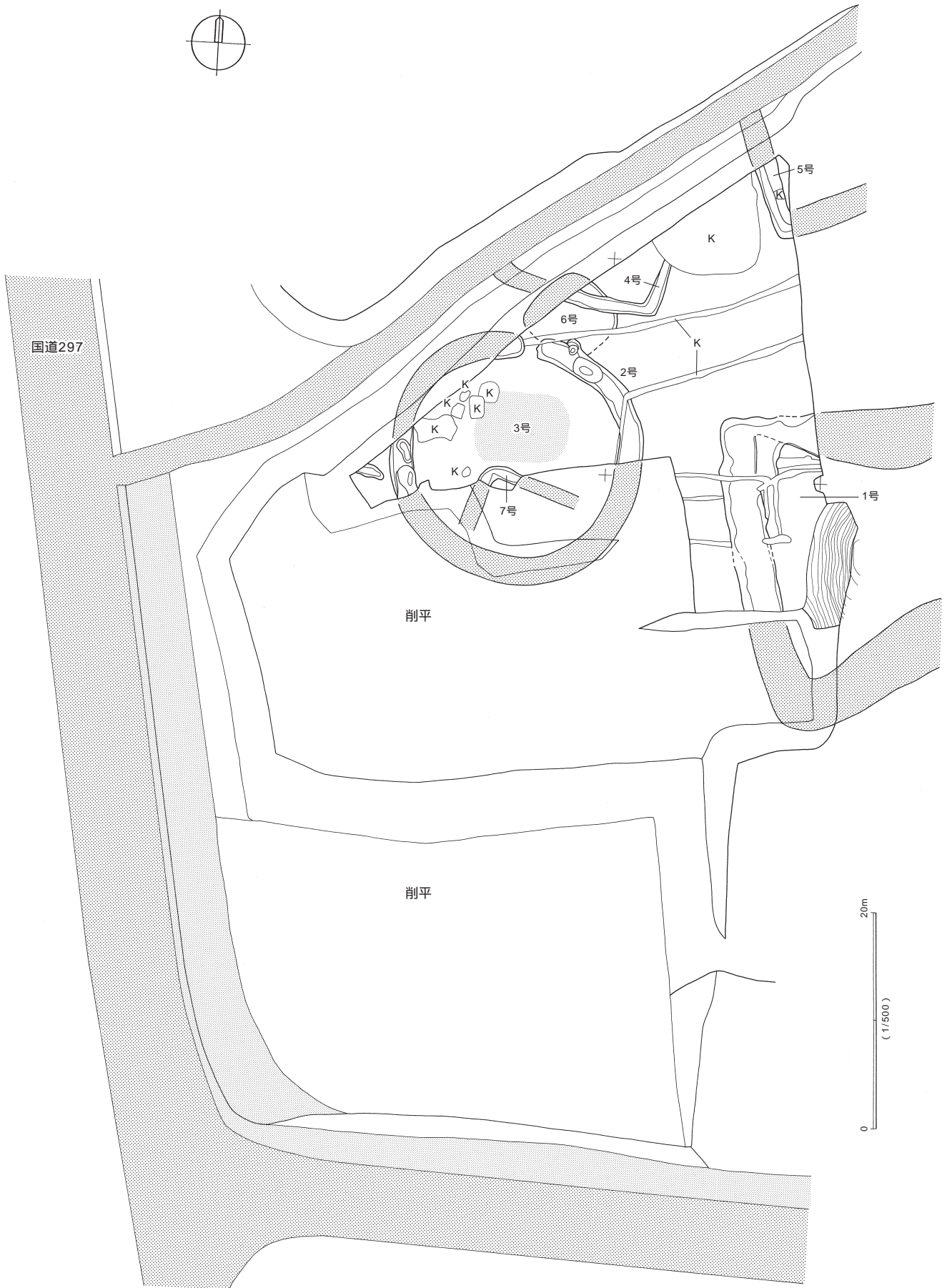
(2) 小川浩一『市原市海士遺跡群(三入道地区)』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第6集市原市教育委員会
2008



第1図 新殿古墳群と周辺遺跡 (1/50,000)



第2図 新殿古墳群周辺地形図 (1/5,000)



第3图 新殿古墳群全体图 (1/500)

遺構と遺物

1号遺構（前方後円墳）

調査時遺構番号はS M - 1。市原市埋蔵文化財分布地図上の新殿3号墳である。分布地図では全長20.3m、前方部の高さ2.2m、後円部高さ2.3mの前方後円墳とされている。前方部盛土の一部は、今回の造成工事で既に削平されているが、前方部前面の周溝幅は3.7m前後、深さ最大92cmを測る。前方部周溝のコーナー部は幅1.6m前後と狭くなるが、括れ部に向かい幅が増大し、調査区内で最大4.2mを測る。復元される前方部前面の周溝は、長さおよそ30m前後を測り、括れ部に向かい左右対称の相似形をなすものと想定される。

埋葬施設

今回の調査範囲内からは確認されていない。

遺物

本遺構からは468点4,448gの土器片と474点13,620gの礫・石器、1点3.4gの鉄器が出土した。土器片の内訳は7点128gの土師器、14点418gの須恵器、309点2,248gの弥生土器、126点1,380gの早期条痕文系土器、2点74gの前期繊維土器、1点16gの前期諸磯式土器、2点30gのその他縄文土器、1点47gの近世土器、6点107gの古代末葉～中世にかけての須恵質土器であり、これらの出土遺物の内51点を図示した。1～6は古墳時代終末期の土師器である。7は近世焙烙、8は古代末～中世にかけての須恵質土器である。9～14は古墳時代終末期の須恵器礫片であり14は頸部に列点文が施されている。15～26は弥生土器であり27・28、30～43は早期条痕文系土器、29・44は前期繊維土器、45は前期諸磯系の土器である。46・47は磨石、48は石皿片、49は石皿転用の窪石である。51は石鏃、50は鉄釘である。これらの遺物は、既に削平を受けた攪乱層から出土したものが主体を占め、出土地点を明示するものは無い。

2号遺構（円墳）

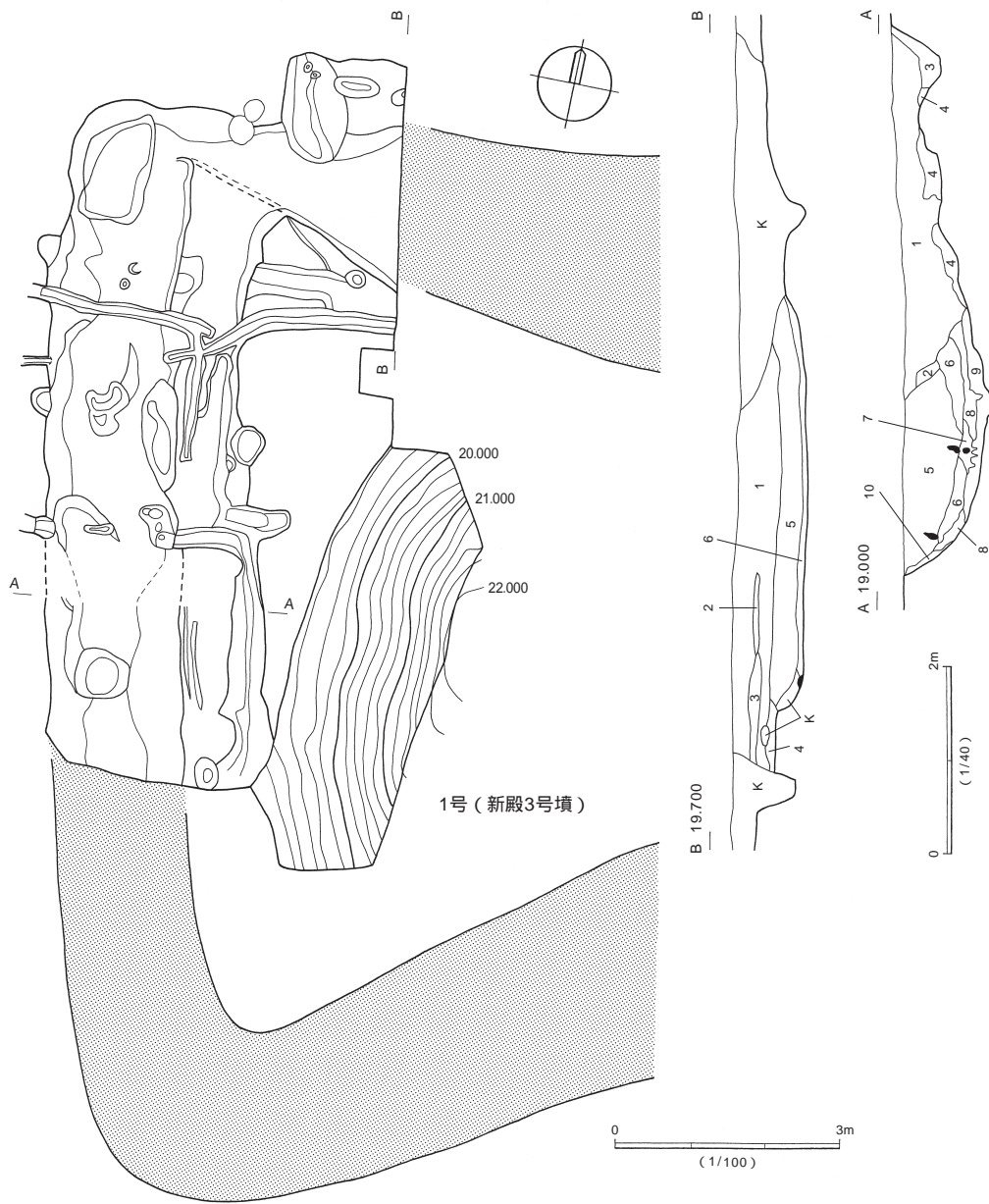
調査時遺構番号はS M - 2。市原市埋蔵文化財分布地図上の新殿2号墳である。分布地図では径8m高さ1.7mの円墳とされるが、今回の調査で、墳丘・周溝の大半は削平されているものの、北側周溝の一部が開口する径18.9mの円墳であることが確認された。東側周溝は幅1.95～2.45m、深さ22.7～58.7cm、西側周溝は幅2.0m前後、深さ34.2～41.4cm前後を測り、断面は浅い半球形を呈する。

埋葬施設

円台部内からの埋葬施設は検出されていないが、周溝内から長径4.1m短径1.4m深さ8cm前後の長楕円土坑が検出されている。この部分の周溝埋土が著しく乱れており、かつ、周溝底より28cm前後浮いた状態で須恵器平瓶の破片が散乱することから、周溝内土壌盛土上部に意識的に供献された須恵器と判断されることから、本墳に伴う周溝内土壌と推定される。

遺物

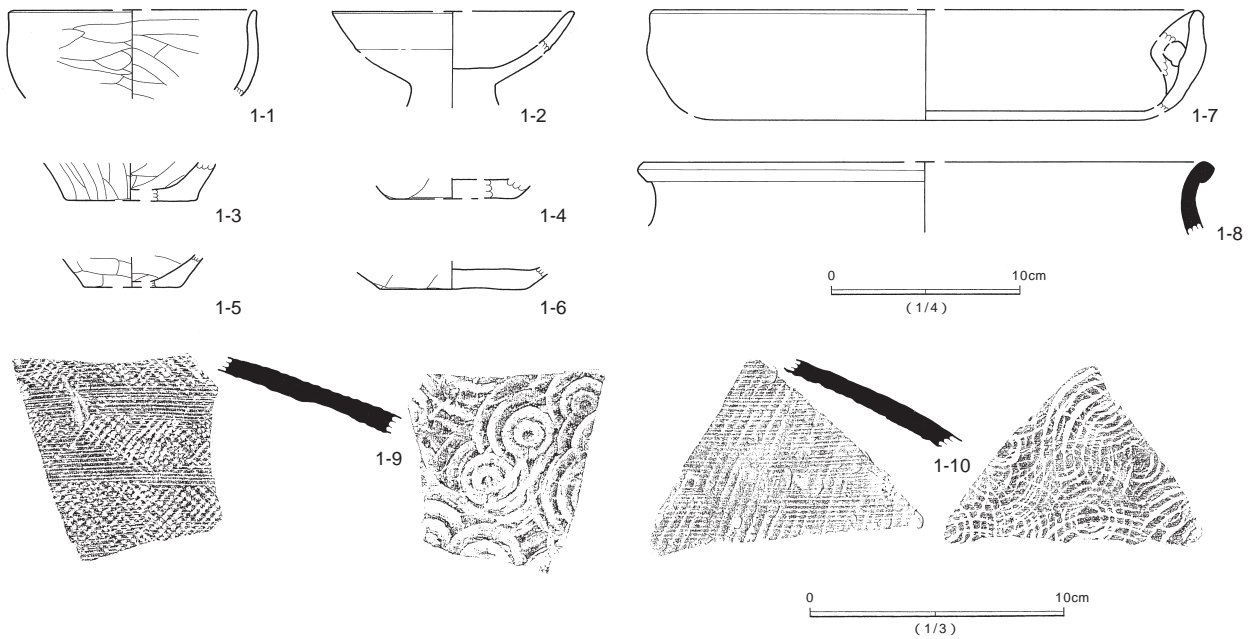
本墳からは189点2,329.6gの土器片と、953点27,262.2gの礫・石器を検出した。土器片の内訳は13点70gの土師器、6点930.3gの須恵器、79点404.3gの弥生土器、72点619.6gの早期条痕文系土器、3点65gの前期繊維土器、13点199.7gのその他縄文土器、3点40.7gの近世土器であり、これらの出土遺物の内23点を図示した。1は周溝内土壌の覆土上部から検出された須恵器平瓶である。口縁部を欠くが、古墳時代終末期の所産である。2は古墳時代後期の須恵器蓋であるが、口縁部を欠く。3は奈良時代の須恵



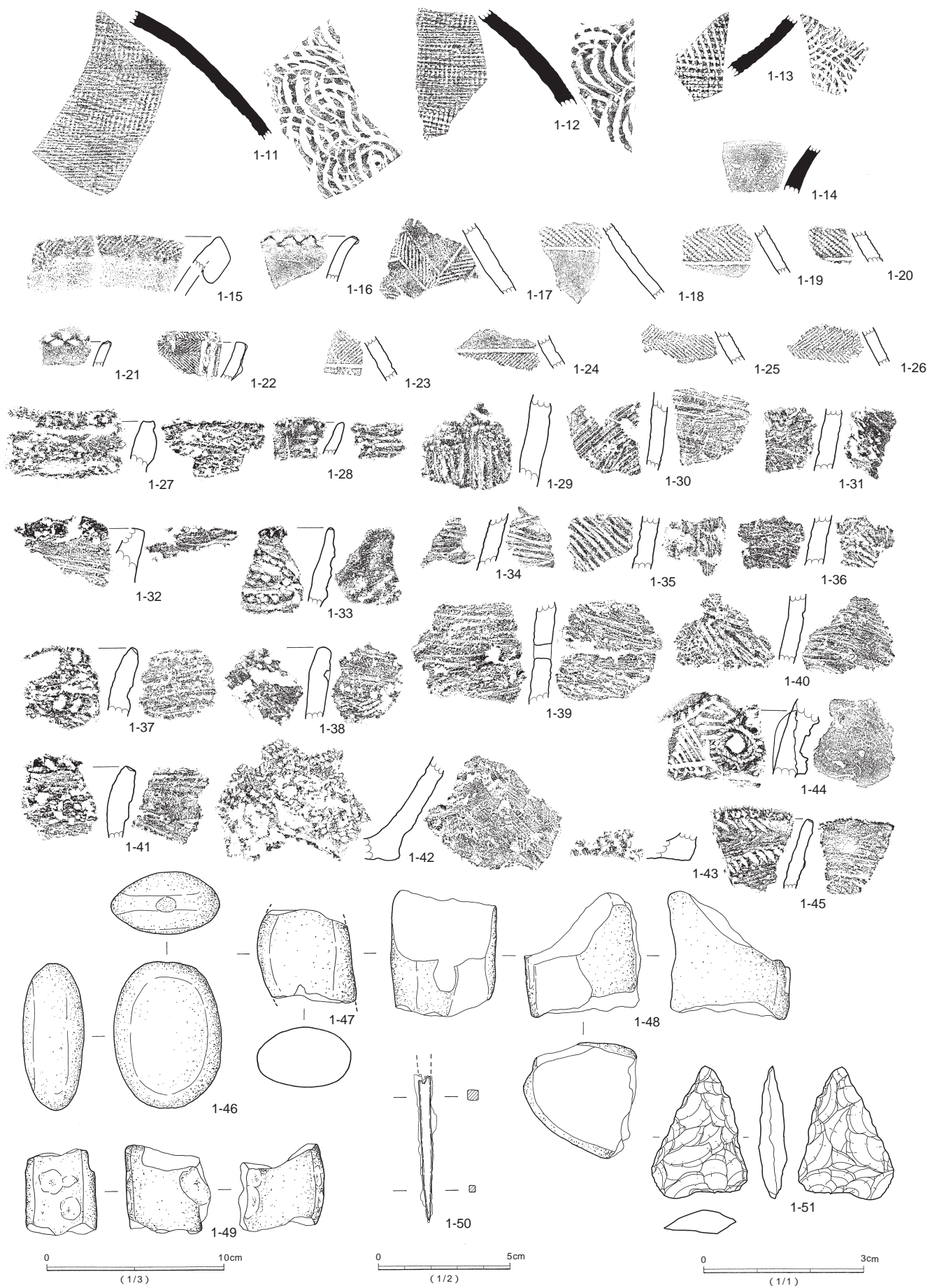
1号（新殿3号墳）

- BB
- 暗褐色土 径1~3mmのローム粒多く含む。
 - 暗褐色土 礫化している。ローム粒多く含む。近代~現代の道。
 - 暗褐色土 礫化している。ローム粒多く含む。近代~現代の道。
 - 暗褐色土 宝来火山灰含む。
 - 黒褐色土 径10mm程のロームブロック少量含む。1号周溝覆土。
 - 黄褐色土 径10~30mmのローム粒多く含む。1号周溝覆土。

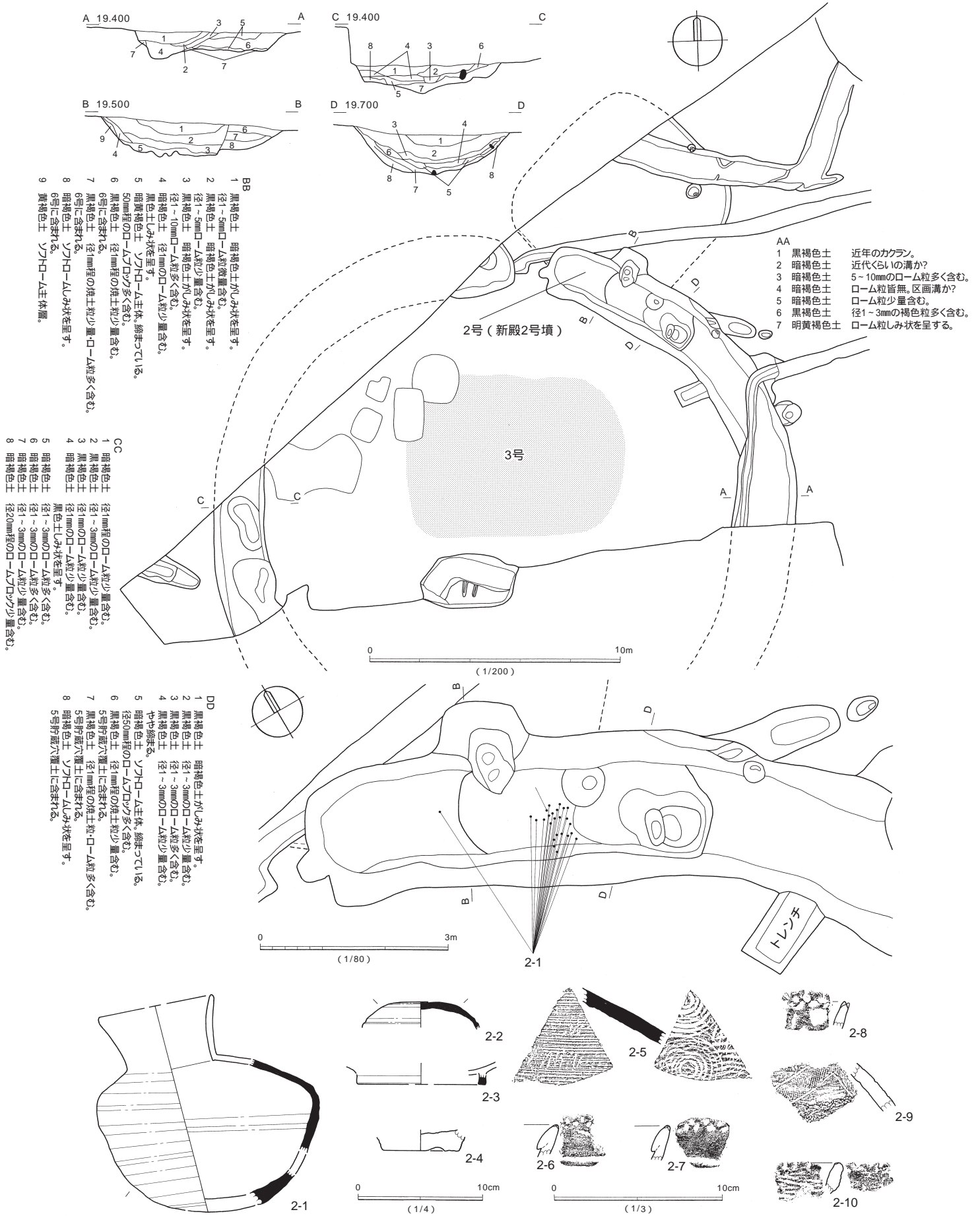
- AA
- 灰褐色土 径1~3mmのローム粒多く含む。
 - 暗褐色土 径1~3mmのローム粒微量に含む。
 - 明褐色土 径5~10mmのローム粒多く含む。
 - 黒褐色土 ソフトローム主体。径10~50mmのロームブロック多く含む。
 - 暗褐色土 径1~3mmのローム粒少量含む。
 - 暗褐色土 径1~3mmのローム粒多く含む。
 - 暗褐色土 径1~3mmのローム粒密に含む。
 - 黄褐色土 ソフトローム主体。10~30mmのロームブロック多く含む。
 - 暗褐色土 ソフトロームみ状を呈す。窪りつつしはロームブロック。



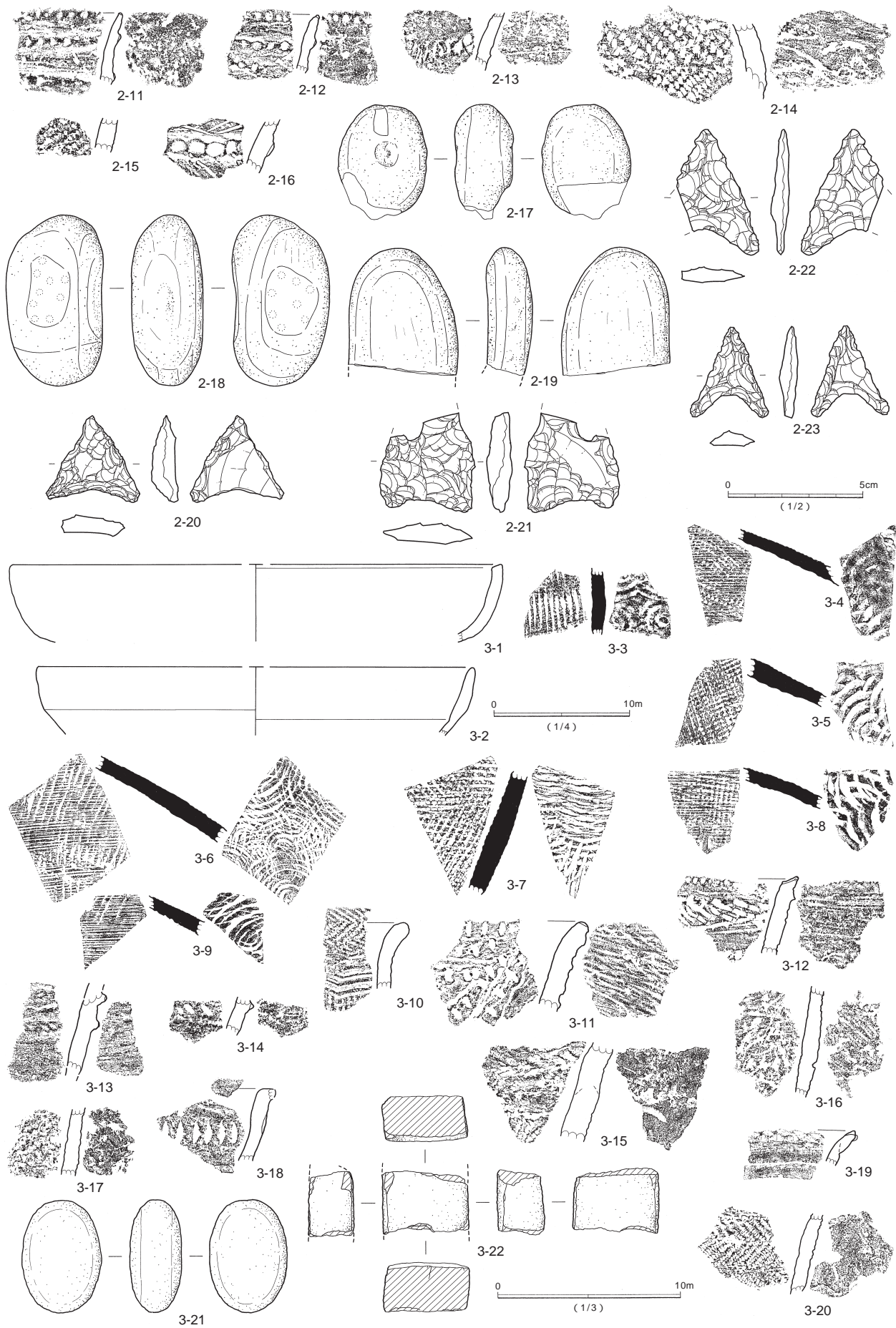
第4図 1号遺構実測図・1号遺構出土遺物実測図



第5图 1号遺構出土遺物実測図



第6図 2号遺構実測図・2号遺構出土遺物実測図



第7图 2~3号遺構出土遺物実測図

器高台付坏の高台部である。この他5が須恵器甕片、6～9は弥生土器、10～12は早期条痕文系土器、13～15が前期繊維土器、16は加曽利B式土器である。17は窪石、18は弱い打痕のある磨石・敲石、19は磨石である。20～23は石鏃である。

3号遺構（縄文早期遺物包含層）

調査時遺構番号なし。ただし、包含層として調査されている。2号墳墳丘下の旧表土層でも最下層付近に相当する層位と想定され、その範囲は長径8.7m短径6.3mの隅丸長方形を呈し、厚さはコンター図から10cm前後に復元される。

遺物

包含層中からは84点1,124.7gの土器片と、135点4,517.1gの礫・石器を検出した。土器片の内訳は14点173.2gの土師器、12点226.2gの須恵器、9点72.8gの弥生土器、1点13.8gの早期燃糸文系土器、44点540.6gの早期条痕文系土器、2点64.9gのその他縄文土器、1点30.1gの近世土器、1点3.1gの土製品であり、これらの出土遺物の内22点を図示した。

1は阿玉台式土器の無文の口縁部である。胎土に金雲母を多量に含んでいる。2は焙烙口縁部である。内耳部は検出されていない。3～9は須恵器甕形土器である。内面に明瞭な青海波を伴う。10は縄文早期燃糸文系の土器である。肥大した口唇部に斜状の燃糸文が施され、口縁部に横走りの平行沈線文、胴部に縦走りの燃糸文が施されている。11～17は早期条痕文系の土器であり、胎土に繊維が含まれている。広義の茅山系の土器である。18は口縁部下に爪形文が一条廻るもので広義の諸磯系の土器である。19は弥生土器、20は縄文関山式土器、21は磨石、22は砥石である。

4号遺構（方墳）

調査時遺構番号はSM-4。市原市埋蔵文化財分布地図上に記載されない新発見の方墳である。今回の調査で、墳丘は削平されているものの、須恵器平瓶等を検出し、古墳時代終末期の方墳であることが確認された。東側周溝は残存長5m前後、幅1.0～1.28m、深さ10.9～22.8cm前後を測る。南側周溝は残存長8m前後、幅0.93～1.45m、深さ14.4～33.1cm前後を測り、断面は逆台形を呈する。

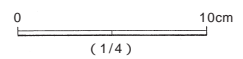
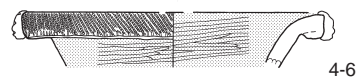
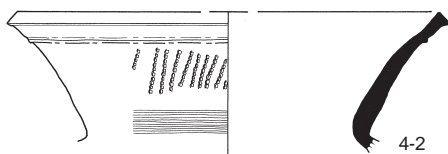
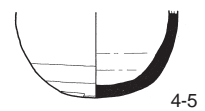
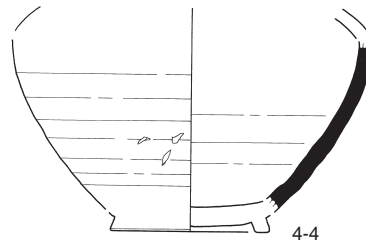
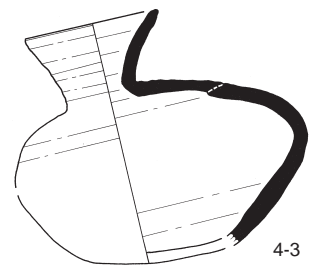
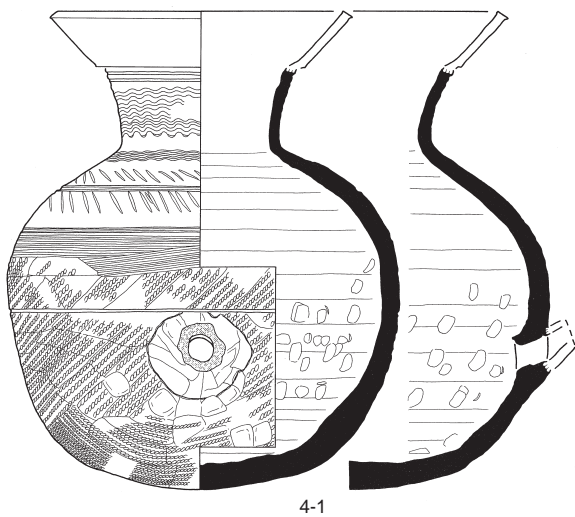
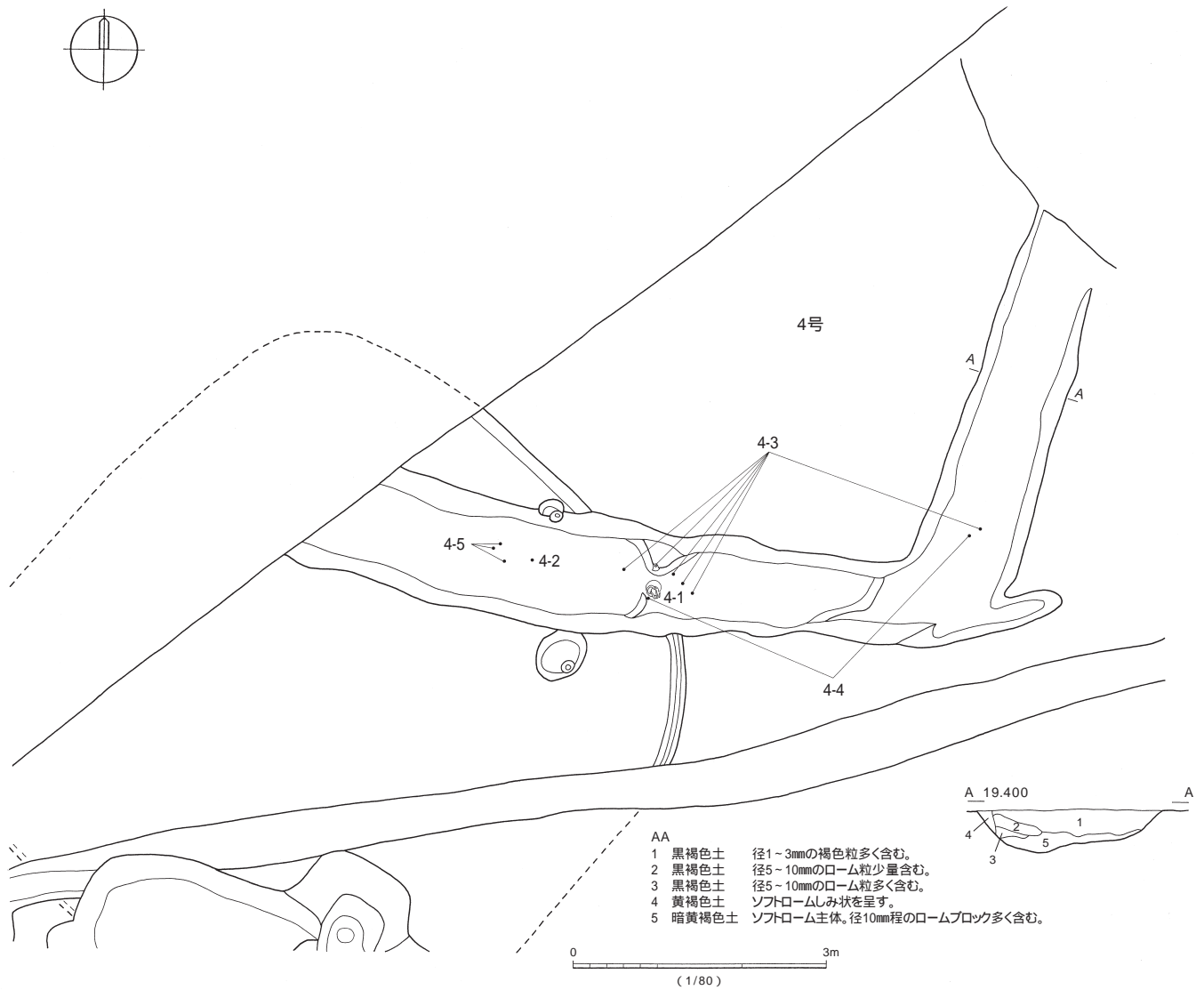
埋葬施設

方台部内からの埋葬施設は検出されていないが、西側周溝内の中央部の一角に、若干の落ち込みが認められ、周溝底から28cm前後の覆土上部から須恵器等の遺物が出土することから、本墳に伴う周溝内土壙の存在が察知される。

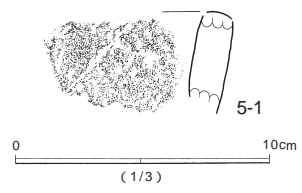
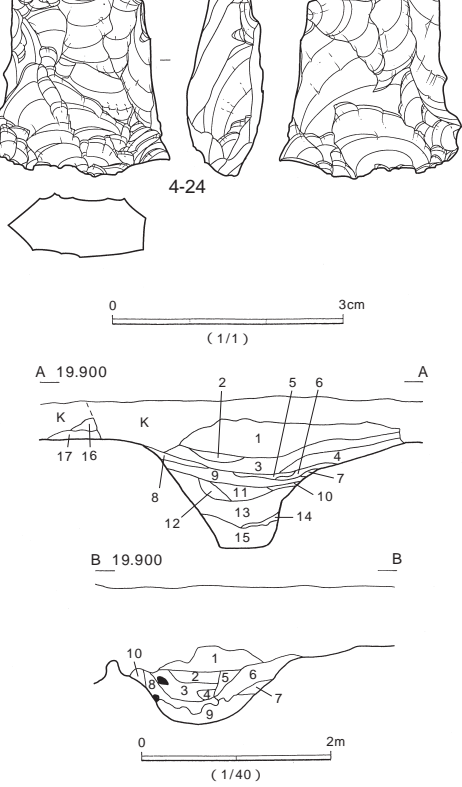
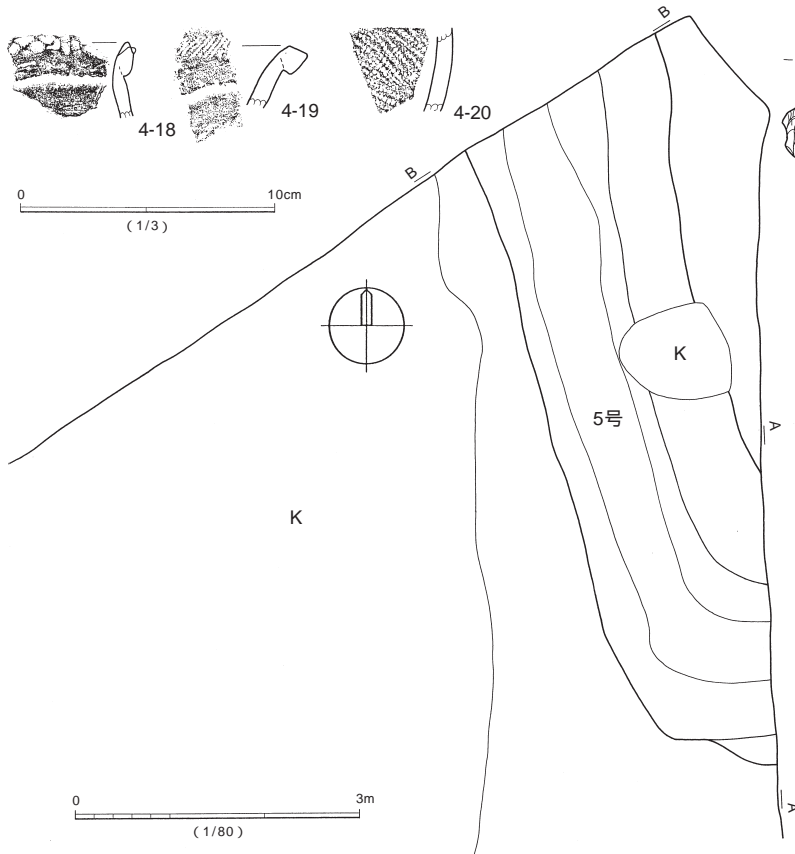
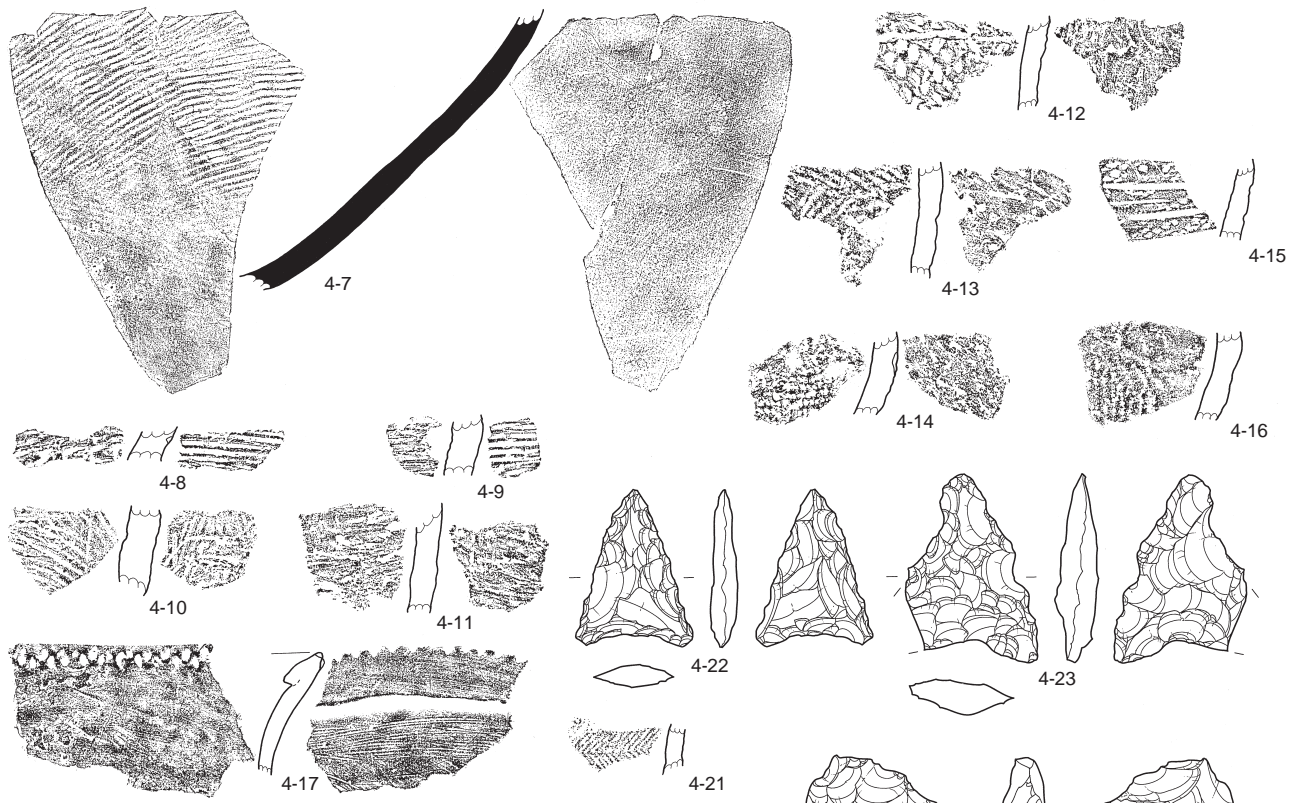
遺物

本墳からは123点4,476gの土器片と、68点47.6gの礫剥片を検出した。土器片の内訳は7点161gの土師器、14点3,534gの須恵器、61点407gの弥生土器、36点281gの早期条痕文系土器、3点54gの前期繊維土器、2点39gのその他縄文土器であり、これらの出土遺物の内24点を図示した。

1は南側周溝中央部から検出された類例に乏しい韓式系土器注口付壺（甗）である。口縁部を欠き、胴部中位から底部にかけて縄蓆文叩きを施す古風仕上げであり、注口部周囲には更なる粘土紐貼り付けを施し、意識的に突出させた製品である。頸部の櫛描波状文は比較的雑で粗く、内面に指頭圧痕を明瞭に残しているが、手法や器形的には明らかに須恵器ではなく、韓式系土器の要素が多分に認められる製品である。同形ではないが、注口部の造りがよく似た製品に、共伴遺物の須恵器有蓋高坏・甗からTK-23型式併行とされる大阪府大阪城公園大手前地区出土の注口付壺が存在する^(註1)。本遺構出土品は、胴部



第8図 4号遺構実測図・4号遺構出土遺物実測図



- BB
- 1 黒褐色土 暗褐色土がしみ状を呈す。径1mm程度のローム粒少量含む。
 - 2 暗褐色土 暗褐色土がしみ状を呈す。径1mm程度のローム粒多く含む。
 - 3 暗褐色土 ソフトロームしみを呈す。径1-3mmのローム粒多く含む。
 - 4 明褐色土 径1-3mmのローム粒密に含む。
 - 5 暗褐色土 径1-3mmのローム粒多く含む。
 - 6 暗褐色土 径1-3mmのローム粒多く含む。やや締まる。
 - 7 暗褐色土 径1-3mmのローム粒少量含む。やや黒色帯びる。
 - 8 黒褐色土 径3-5mmのローム粒多く含む。
 - 9 黄褐色土 径50mm大のロームブロック主体。
 - 10 黄褐色土 基本土層。ハードローム層。塗りつぶしはロームブロック。

- AA
- 1 黒褐色土 暗褐色土がしみ状を呈す。径1mm程度のローム粒少量含む。
 - 2 黒褐色土 暗褐色土がしみ状を呈す。径1mm程度のローム粒多く含む。
 - 3 黒褐色土 暗褐色土がしみ状を呈す。径1-3mmのローム粒多く含む。
 - 4 暗褐色土 径1-5mmのローム粒多く含む。
 - 5 暗褐色土 径1-5mmのローム粒密に含む。
 - 6 暗褐色土 径1-5mmのローム粒少量含む。
 - 7 暗褐色土 5層に近似。
 - 8 黒褐色土 径1-3mmのローム粒少量含む。
 - 9 暗褐色土 径1-5mmのローム粒多く含む。やや締まる。
 - 10 黒褐色土 8層に近似。
 - 11 暗褐色土 径1-5mmのローム粒多く含む。
 - 12 暗褐色土 ソフトロームしみを呈す。
 - 13 暗褐色土 5-20mm大のロームブロック多く含む。
 - 14 黒褐色土 径1-3mmのローム微量含む。
 - 15 黄褐色土 径30mm以上のロームブロック主体。
 - 16 暗褐色土 ローム漸移層。
 - 17 黄褐色土 基本土層。ソフトローム層。

第9図 5号遺構実測図・4～5号遺構出土遺物実測図

から底部周囲に縄文叩きを施すことから更に古手と想定されるが、他の出土遺物は古墳時代終末期の所産と捉えられることから、伝世ないしは混入品であろう。2は須恵器甕口縁部であり、3は底部を欠くが、古墳時代終末期の須恵器平瓶である。4は須恵器長頸壺胴部、5は須恵器罎胴部である。これらの須恵器は何れも南側の周溝底から浮いた状態で検出されている。この他周溝内一括で6～21の弥生土器・須恵器・縄文土器、22～24の石鏃などが検出されている。

5号遺構（方墳）

調査時遺構番号はS M - 3。調査区北東端に検出された市原市埋蔵文化財分布地図上に記載されない新発見の方墳である。墳丘は削平されているものの、南側のコーナー部の一部が検出され、比較的直角に巡ることが確認されたことから、古墳時代終末期の方墳と想定される。西側周溝は残存長7.1m前後、幅1.85～2.35m、深さ81～110cm前後を測り、断面は逆台形を呈する。

埋葬施設

本遺構からは検出されなかった。

遺物

本遺構からは9点92.8gの土器片と12点531.2gの焼割礫・剥片が出土した。土器片の内訳は3点26gの土師器、4点21.2gの弥生土器、1点11.7gの前期繊維土器、1点33.9gのその他縄文土器である。これらの出土遺物の内1点を図示した。1は縄文土器口縁部であるが、具体的時期は不明である。これ以外の遺物は何れも具体的特徴のない細片であり、かつ、何れも覆土一括で取上げられており、出土地点を明示するものは無い。

6号遺構（竪穴住居跡）

調査時遺構番号はS I - 1。2号遺構と4号遺構に削平されて存在する竪穴住居跡である。西側壁立ち上がりは平面的には検出されなかったが、土層断面に僅かながら落ち込みが検出され、その結果、長径7.80m短径7.40mの長楕円を呈する竪穴住居跡であることが確認できる。炉は4号遺構南側周溝に削平されたと想定され、ピットは3ヶ所に検出された。深さはP 1が23.8cm、P 2は26.7cm、P 3は貯蔵穴と想定され、深さは64.5cmを測る。土層断面より東側壁立ち上がり20cm、西側は5 cmを測る。

遺物

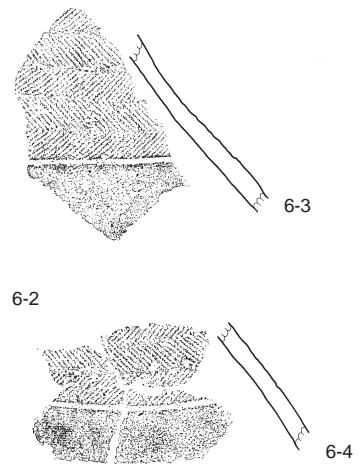
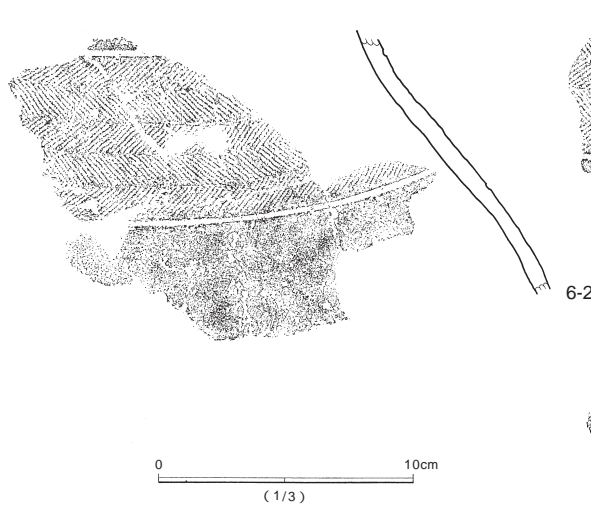
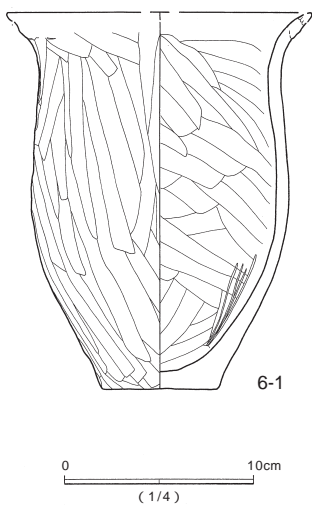
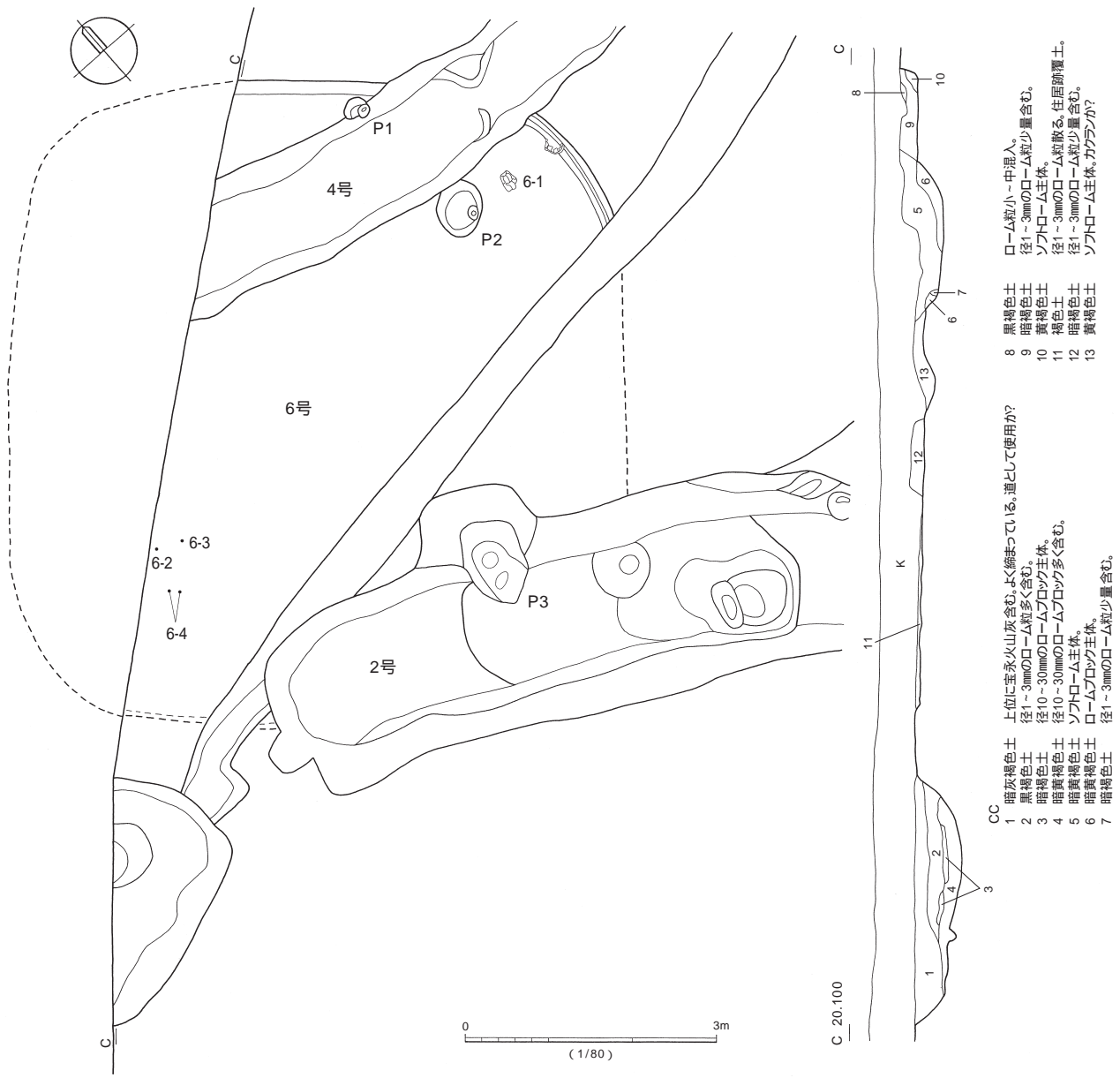
本遺構からは23点1,293.7gの弥生土器と6点48.8gの礫が出土した。これらの出土遺物の内4点を図示した。1は後期初頭前後の甕であり、床面密着の状況で検出された。2～4は同一個体と思われる壺であり、何れも床面ないしは直上で取り上げられたものである。

7号遺構（方形周溝墓）

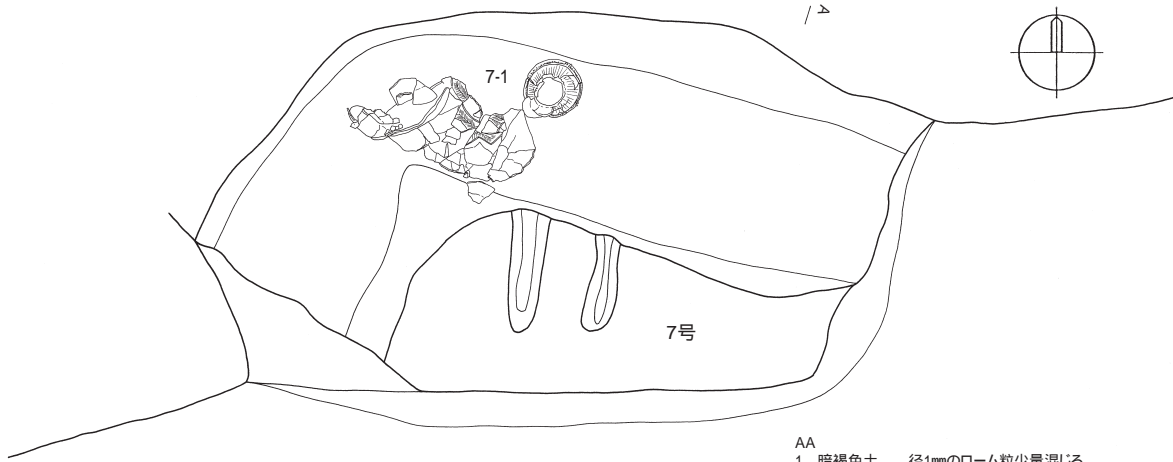
調査時遺構番号はS S - 1。現状では墳丘や周溝の大半が削平されているものの、西北コーナー部と想定される溝状遺構から、弥生大型壺が底面から40cm程浮いた状態で検出された。弥生時代の遺物の出土やコーナー部の巡り方が直角ではないことから、方形周溝墓と判断される。残存する周溝は、北側周溝で長さ3.10m、幅1.20m、深さ50cm前後を測り、断面は逆台形を呈している。

遺物

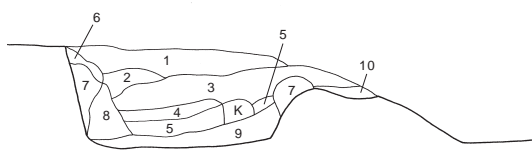
本遺構からは22点10,935.5gの土器片と33点423.5gの焼割礫・剥片が出土した。土器片の内訳は7点10,710gの弥生土器、14点170gの早期条痕文系土器、1点55.5gのその他縄文土器である。これらの出土遺物の内2点を図示した。1は弥生大型壺である。口唇部に2連1組の棒状浮文を4ヶ所に貼り付け、



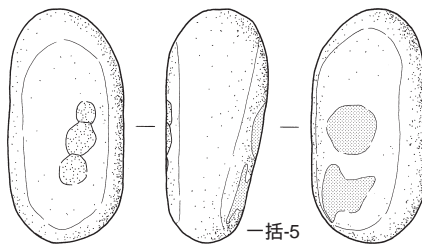
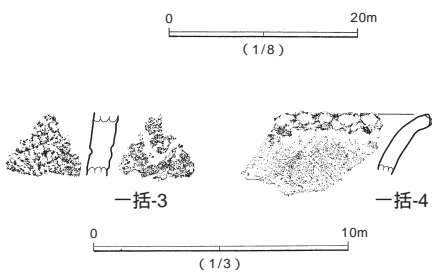
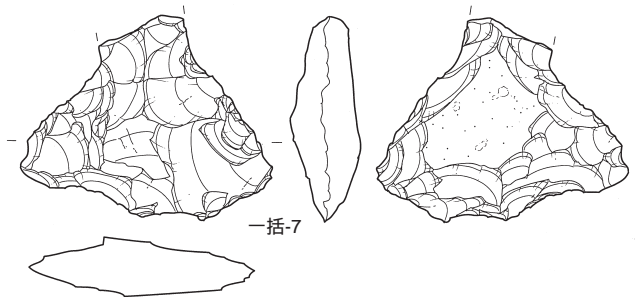
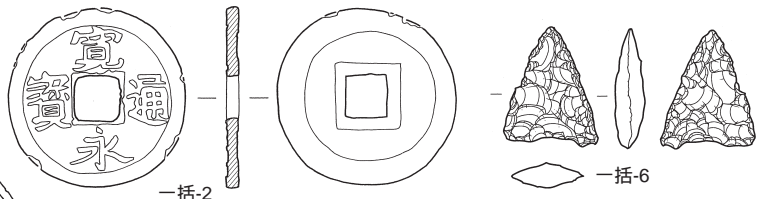
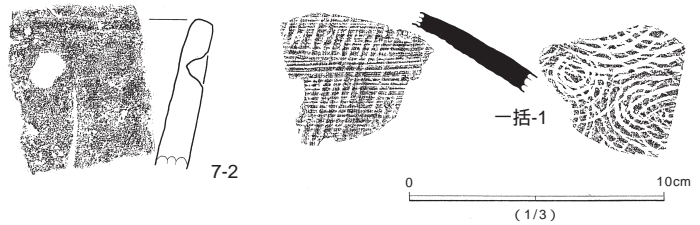
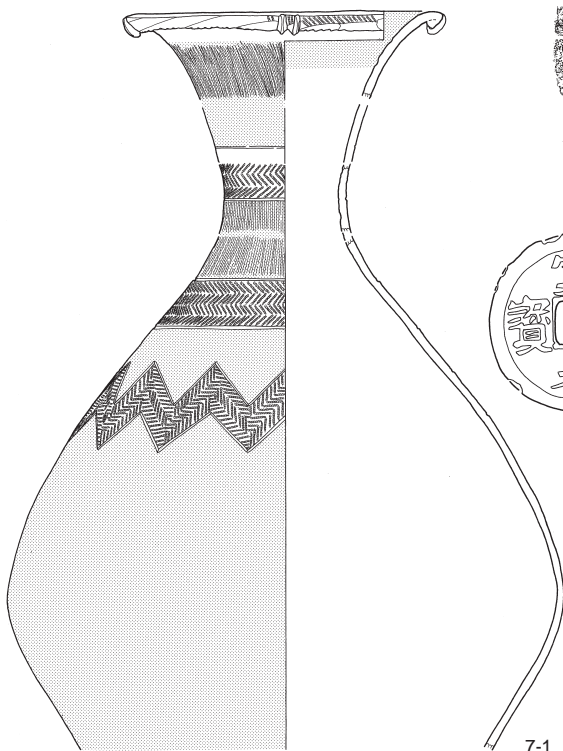
第10図 6号遺構実測図・6号遺構出土遺物実測図



A 19.800



- AA
- 1 暗褐色土 径1mmのローム粒少量混じる。
 - 2 暗褐色土 径1mmのローム粒少量混じる。ソフトロームしみ状を呈す。
 - 3 暗褐色土 径1~3mmのローム粒少量混じる。ソフトロームしみ状を呈す。
 - 4 暗褐色土 径1~3mmのローム粒少量混じる。
 - 5 黒褐色土 径1mmのローム粒多く混じる。
 - 6 暗黄褐色土 ソフトロームしみ状を呈す。
 - 7 黄褐色土 ソフトローム主体。
 - 8 暗褐色土 径1~3mmのローム粒多く混じる。
 - 9 暗褐色土 径10~30mmのロームブロック多く含む。
 - 10 黄褐色土 ソフトローム主体。



第11図 7号遺構実測図・7号~遺跡一括出土遺物実測図

斜縄文施文後大半をナデ消している。胴部は平行沈線による山形文を配し、沈線間は羽状縄文によって充填されている。施文以外は丁寧なヘラ磨きと赤彩が施されている。2は無文の縄文土器口縁部である。

遺跡一括出土遺物

遺跡一括出土遺物では、38点302.0gの土器片と、16点289.4gの礫剥片を検出した。土器片の内訳は1点6.8gの土師器、1点32.0gの須恵器、30点210.2gの弥生土器、4点34.5gの早期条痕文系土器、2点18.5gのその他縄文土器であり、これらの出土遺物の内7点を図示し、第11図7号遺構出土遺物の後にまとめた。1は須恵器甕片である。2は寛永通宝である。3は前期繊維土器、4は宮ノ台式土器、5は弱い打痕のある磨石、6は石鏃、7は石匙かと思われる。

ま と め

今回の1,120m²の調査範囲から、総数7基の各種遺構が検出された。中でも古墳は新発見の古墳を含め総数4基が検出されており、その内の2・4・5号墳の3基は、出土遺物や遺構の状態から何れも終末期古墳の範疇に属するものと想定され、新殿古墳群の包蔵する内容の一部が明らかにされた。また、弥生時代には住居跡や方形周溝墓等も検出されており、削平がこれほどまでに及んでいなければ、本来包蔵した遺構量も豊富な遺跡だったことが暗示される。更に縄文時代早期の遺物包含層も保持していたようであり、多くの早期条痕文系土器や礫を検出した。礫のその大半には被熱痕が存在しており、おそらく縄文早期包含層中に集石遺構が存在していたものと推定される。

古墳時代終末期の遺構からは、縄蓆文叩きが施された韓式系土器注口付壺が検出された。渡来人の服装と想定される筒袖型人物埴輪を検出した山倉1号墳に距離的にも近いことから、何らかの関連性があるのかもしれない。

これらのことから、今回の調査範囲の周辺の上層には、墳丘を喪失した古墳や方形周溝墓が、下層には弥生時代の竪穴住居や縄文時代早期の包含層の存在が予測され、今後周辺地区の調査には十分な留意が必要であろう。

註及び引用参考文献

註1 田中清美「上町台地北部出土の韓式系土器と異形須恵器」『韓式系土器研究』韓式系土器研究会1993

第3表 新殿古墳群出土器観察表

新遺構 番号	遺物 番号	旧遺構 番号	実測 番号	器種 遺存度	出土位置	法量(推定)cm		(外)色調		胎土	特 徴	備 考
						口径	器高	(内)色調				
1	1	SM-1	1	土師器短頸壺 口縁1/6	一括	(13.0)		7.5YR5/4にぶい褐色	密	外 内	口縁部ナナ子、他器ナナ子、他器ナナ子。	
1	2	SM-1	2	土師器高坏 口縁1/8	一括	(12.8)		5YR6/4にぶい褐色	密	外 内	口縁部ナナ子、他器ナナ子、他器ナナ子。	
1	3	SM-1	3	土師器壺 底部1/4	一括		(7.0)	7.5YR5/6明褐色	密	外 内	器ナナ子。	
1	4	SM-1	4	土師器壺 底部1/4	一括		(7.4)	5YR5/6明赤褐色	密	外 内	器ナナ子。	
1	5	SM-1	6	土師器壺 底部1/5	一括		(7.0)	7.5YR4/4褐色	密	外 内	器ナナ子。	
1	6	SM-1	5	土師器壺 底部1/3	一括		(6.8)	5YR5/6明赤褐色	密	外 内	器ナナ子。	
1	7	SM-1	8	埴器 口縁1/8	一括	(28.8)		10YR4/2灰黄褐-5YR1.7/1黒色	密	外 内	ナナ子。	
1	8	SM-1	7	古代未-中世須恵器壺 口縁1/16	一括	(29.8)		7.5YR5/6明褐色	密	外 内	ナナ子。	
1	9	SM-1	17	須恵器壺 胴部	一括			2.5Y5/2暗灰黄色	密	外 内	平行磨き後回転磨き目。	
1	10	SM-1	15	須恵器壺 胴部	一括			5Y4/1灰色	密	外 内	平行磨き後回転磨き目。	
1	11	SM-1	16	須恵器壺 胴部	一括			2.5Y4/1黄灰色	密	外 内	平行磨き後回転磨き目。	
1	12	SM-1	18	須恵器壺 胴部	一括			2.5Y4/2暗灰黄色	密	外 内	平行磨き後回転磨き目。	
1	13	SM-1	19	須恵器壺 胴部	一括			2.5Y5/3黄褐色	密	外 内	格子風磨き。	
1	14	SM-1	20	須恵器壺 胴部	一括			10YR5/1褐灰色	密	外 内	烈点文。	
1	15	SM-1	23	弥生壺 口縁部	一括			7.5YR6/6橙色	密	外 内	折り返し口縁、口縁部細縄文。	
1	16	SM-1	24	弥生壺 口縁部	一括			7.5YR5/6明褐色	密	外 内	口唇部指頭押捺波状文、他器ナナ子、口唇部指頭押捺波状文、他器ナナ子。	
1	17	SM-1	26	弥生壺 胴部	一括			10YR6/4にぶい黄褐色 2.5Y6/4にぶい黄褐色	砂粒含む	外 内	平行沈線による山形文内に細縄文、他ナナ子。	
1	18	SM-1	22	弥生壺 胴部	一括			10R4/4赤褐色	密	外 内	沈線の上位に細縄文、他器三才ナ。	外面赤彩。
1	19	SM-1	21	弥生壺 胴部	一括			10YR6/6明黄褐色	密	外 内	沈線の上位に羽状縄文、器三才ナ。	外面赤彩。
1	20	SM-1	32	弥生壺 胴部	一括			10YR6/4にぶい黄褐色	密	外 内	沈線の上に縄文。	
1	21	SM-1	25	弥生壺 口縁部	一括			5YR3/2暗赤褐色	密	外 内	口唇部指頭押捺波状文、他器ナナ子、口唇部指頭押捺波状文、他器ナナ子。	
1	22	SM-1	31	弥生鉢 口縁部	一括			7.5YR5/4にぶい褐色 5YR5/6明赤褐色	密	外 内	口唇部縄文、口縁部羽状縄文と棒状跡り付け。	
1	23	SM-1	30	弥生壺 胴部	一括			10YR5/6黄褐色	良好	外 内	沈線の上に羽状縄文、他ナナ子。	
1	24	SM-1	27	弥生壺 胴部	一括			2.5YR4/4にぶい赤褐-7.5YR5/4にぶい褐色	良好	外 内	沈線下に縄文、他ナナ子。	外面施文以外・内面全面赤彩。
1	25	SM-1	29	弥生壺 胴部	一括			10YR5/3にぶい黄褐色	良好	外 内	羽状縄文。	
1	26	SM-1	28	弥生壺 胴部	一括			10YR5/4にぶい黄褐色	良好	外 内	羽状縄文。	
1	27	SM-1	35	縄文深鉢 口縁部	一括			7.5YR4/4褐色	良好	外 内	条痕文。	早期条痕文系土器。
1	28	SM-1	40	縄文深鉢 口縁部	一括			7.5YR4/4褐色 5YR5/6明赤褐色	良好	外 内	条痕文。	早期条痕文系土器。

新遺構 番号	遺物 番号	旧遺構 番号	実測 番号	器種 遺存度	出土位置	法量(推定)cm		(外)色調 (内)色調	焼成	胎土	特 徴	備 考
						口径	底径 器高					
1	29	SM-1	33	縄文深鉢 胴部	一括		5YR6/6褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	繊維含む	内外 糸履文。 内 磨耗?	前期繊維土器。	
1	30	SM-1	47	縄文深鉢 胴部	一括		5YR2/3暗赤褐色 7.5YR3/3暗褐色	良好	繊維含む	内外 糸履文。 内 糸履文。	早期糸履文系土器。	
1	31	SM-1	50	縄文深鉢 胴部	一括		10YR3/2黒褐色 5YR4/4に5Y1赤褐色	良好	繊維含む	内外 糸履文。 内 糸履文。	早期糸履文系土器。	
1	32	SM-1	37	縄文深鉢 口縁部	一括		10YR4/3に5Y1黄褐色	良好	繊維含む	内外 糸履文。 内 糸履文。	早期糸履文系土器。	
1	33	SM-1	44	縄文深鉢 口縁部	一括		2.5YR4/8赤褐色	良好	繊維含む	外 口唇部キザミ目、口縁部直下に3条の隆体、隆体に棒状工具による連続刺突文。 内 糸履文。	早期糸履文系土器。	
1	34	SM-1	34	縄文深鉢 胴部	一括		7.5YR4/4褐色 7.5YR4/2灰褐色	良好	密	内外 糸履文。 内 糸履文。	早期糸履文系土器。内外面一部赤い部分有り(2.5YR5/6明赤褐色)	
1	35	SM-1	48	縄文深鉢 胴部	一括		7.5YR4/4褐色 7.5YR3/2黒褐色	良好	繊維含む	内外 糸履文。 内 糸履文。	早期糸履文系土器。	
1	36	SM-1	49	縄文深鉢 胴部	一括		7.5YR4/3褐色	良好	繊維含む	内外 糸履文。 内 糸履文。	早期糸履文系土器。	
1	37	SM-1	38	縄文深鉢 口縁部	一括		10YR5/4に5Y1黄褐色	良好	密	内外 糸履文。 内 糸履文。	早期糸履文系土器。	
1	38	SM-1	46	縄文深鉢 口縁部	一括		10YR3/2暗褐色 10YR3/2黒褐色	良好	密	内外 糸履文。 内 糸履文。	早期糸履文系土器。	
1	39	SM-1	45	縄文深鉢 胴部	一括		7.5YR3/4暗褐色 10YR3/2黒褐色	良好	繊維含む	内外 糸履文。 内 糸履文。	早期糸履文系土器。	
1	40	SM-1	51	縄文深鉢 胴部	一括		10YR3/2暗褐色 10YR3/2黒褐色	良好	繊維含む	内外 糸履文。 内 糸履文。	早期糸履文系土器。	
1	41	SM-1	39	縄文深鉢 口縁部	一括		7.5YR5/4に5Y1黄褐色 10YR5/4に5Y1黄褐色	良好	密	内外 糸履文。 内 糸履文。	早期糸履文系土器。	
1	42	SM-1	42	縄文深鉢 底部	一括		5YR3/6暗赤褐色 7.5YR5/4に5Y1黄褐色	良好	繊維含む	内外 糸履文。 内 糸履文。	早期糸履文系土器。	
1	43	SM-1	43	縄文深鉢 底部	一括		2.5YR5/2灰黄褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	繊維含む	内外 糸履文。 内 糸履文。	早期糸履文系土器。	
1	44	SM-1	36	縄文深鉢 胴部	一括		10R3/1黒褐色 7.5YR4/4褐色	良好	繊維含む	外 縄文原体押捺、半割竹管による平行洗線。 内 ナナ。	早期糸履文系土器(茅山下層式)	
1	45	SM-1	41	縄文深鉢 口縁部	一括		5Y4/2暗オリーブ 7.5YR5/6暗褐色 10YR6/4に5Y1黄褐色	良好	密	外 口唇部キザミ、口縁-胴部に2条の爪形文が廻る。 内 糸履文。	前期繊維土器(関山式)	
2	1	SM-2	1	須恵器 平瓶 全体2/3程度・底部欠損 胴部より上欠損	一括		5Y4/2暗オリーブ 5Y7/1灰白色	良好	密	外 口唇部キザミ、他ナナ。 内 口唇部整形、胴部より上は別作りで貼り合わせる。胴部より上は別作りで貼り合わせる。		
2	2	SM-2	2	須恵器 坏蓋 全体1/3程度・天井部1/2	一括	(9.4)	N3/暗灰色 2.5Y3/3暗オリーブ褐色	良好	密	外 天井部時計方向の回転窓ケズリ。 内 口唇部ナナ。		
2	3	SM-2	3	須恵器 高台付坏 底部1/2	一括	(10.4)	5Y4/2灰オリーブ色	良好	密	外 口唇部整形。 内 口唇部整形。		
2	4	SM-2	4	縄文深鉢 底部欠存	一括	6.0	2.5YR4/6赤褐色 N4/灰色 N3/暗灰色	粗い(劣 化の為)	1-2mm大の 礫含む	外 磨耗。 内 磨耗。 外 平行線後回転窓、 内 平行線後回転窓消し。		
2	5	SM-2	16	須恵器 甕 胴部	一括		10YR3/3暗褐色	良好	密	外 口唇部棒状工具によるキザミ、他ナナ。 内 口唇部棒状工具によるキザミ、他ナナ。		
2	6	SM-2	7	弥生甕 口縁部	一括		10YR5/3に5Y1黄褐色 10YR3/3暗褐色	良好	密	外 口唇部棒状工具によるキザミ、他ナナ。 内 口唇部棒状工具によるキザミ、他ナナ。		
2	7	SM-2	8	弥生甕 口縁部	一括		10YR5/4に5Y1黄褐色	良好	密	外 口唇部指頭押捺波状文、他ナナ。 内 口唇部指頭押捺波状文、他ナナ。		
2	8	SM-2	6	弥生甕 口縁部	一括		10YR5/4に5Y1黄褐色	良好	密	外 洗線で区画された山形文内に細線文、山形文下にS字状結節文、他ナナ。 内 他ナナ。	外面赤彩。	
2	9	SM-2	5	弥生甕 胴部	一括		10YR5/4に5Y1黄褐色 10R4/4赤褐色	良好	1mm大の 礫含む	外 洗線で区画された山形文内に細線文、山形文下にS字状結節文、他ナナ。 内 他ナナ。	早期糸履文系土器。	
2	10	SM-2	11	縄文深鉢 口縁部	一括		10YR5/4に5Y1黄褐色 10YR3/4暗褐色	良好	繊維含む	内外 糸履文。 内 磨耗。	早期糸履文系土器。	

新遺構 番号	遺物 番号	旧遺構 番号	実測 番号	器種 遺存度	出土位置	法量(推定)cm		(外)色調 (内)色調	焼成	胎土	特 徴	備 考
						口径	器高					
2	11	SM-2	9	縄文深鉢 口縁部	一括			10YR5/4にぶい黄褐色 10YR4/3にぶい黄褐色	良好	1-3mm大の 織含む	口唇部指頭押捺文、条痕文間に隆体、隆体上に半載竹管による連続刺突文。 内ナテ。	早期条痕文系土器。
2	12	SM-2	12	縄文深鉢 口縁部	一括			10YR5/4にぶい黄褐色 10YR4/3にぶい黄褐色	良好	2-4mm大の 織含む	口唇部棒状工具によるキザミ、条痕文間に隆体、隆体上に半載竹管による連続刺突文。 内ナテ。	早期条痕文系土器。
2	13	SM-2	10	縄文深鉢 胴部	一括			10YR7/3にぶい黄褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	織維含む	連続爪形文。 条痕文? 内ナテ。	前期織維式土器。
2	14	SM-2	14	縄文深鉢 胴部	一括			10YR3/4暗褐色 10YR4/3にぶい黄褐色	良好	織維含む	羽状縄文? 内ナテ。	前期織維式土器。
2	15	SM-2	15	縄文深鉢 胴部	一括			7.5YR5/6明褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	織文。 内ナテ。	前期織維式土器。
2	16	SM-2	13	縄文深鉢 胴部	一括			5YR5/6明赤褐色 7.5YR5/4にぶい黄褐色	良好	2mm大の 織含む	次線文後指頭押捺文。 内ナテ。	加曽利B式土器。
3	1	包含層-1	1	縄文深鉢 口縁1/6	一括	(36.2)		7.5YR5/4にぶい黄褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	金雲母含む	ナテ。 内ナテ。	阿玉台式土器。
3	2	包含層-1	3	近世器 口縁1/6	一括	(32.0)		10YR1 7/1黒~10YR5/4にぶい黄褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	密	内ナテ。 内ナテ。	
3	3	包含層-1	20	須恵器 胴部	一括			2.5Y5/2暗灰黄色 5Y5/2灰黄	良好	密	平行絞き。 内ナテ。	
3	4	包含層-1	17	須恵器 胴部	一括			2.5Y4/7黄灰色 2.5Y5/2暗灰黄色	良好	密	平行絞き後回転掻き目。 内ナテ。	
3	5	包含層-1	18	須恵器 胴部	一括			2.5Y6/3にぶい黄色 5Y4/1灰色	良好	密	平行絞き。 内ナテ。	
3	6	包含層-1	15	須恵器 胴部	一括			5Y5/1灰色 5Y4/1灰色	良好	密	平行絞き後回転掻き目。 内ナテ。	
3	7	包含層-1	16	須恵器 胴部	一括			2.5Y4/7黄灰色 5Y4/1灰色	良好	密	格子風絞き。 内ナテ。	
3	8	包含層-1	19	須恵器 胴部	一括			5Y5/2灰オリーブ色	良好	密	平行絞き後回転掻き目。 内ナテ。	
3	9	包含層-1	21	須恵器 胴部	一括			2.5Y4/7黄灰色	良好	密	平行絞き後回転掻き目。 内ナテ。	
3	10	包含層-1	9	縄文深鉢 口縁部	一括			10YR5/4にぶい褐色	良好	密	口唇部擦系文、他器ナテ。 内ナテ。	早期条痕文系土器。
3	11	包含層-1	6	縄文深鉢 口縁部	一括			7.5YR4/3褐色 10YR3/2黒褐色	良好	織維含む	口唇~胴部にかけて棒状工具による刺突文。 条痕文。 内ナテ。	早期条痕文系土器。
3	12	包含層-1	8	縄文深鉢 口縁部	一括			10YR6/4にぶい黄褐色	良好	織維含む	口唇部棒状工具によるキザミ目、下に半載竹管による刺突文。 内ナテ。	早期条痕文系土器。
3	13	包含層-1	7	縄文深鉢 胴部	一括			5YR5/6明赤褐色 10YR4/3にぶい黄褐色	良好	織維含む	2段の隆部に棒状工具によるキザミ目。 内ナテ。	早期条痕文系土器。
3	14	包含層-1	14	縄文深鉢 胴部	一括			7.5YR4/6褐色 7.5YR4/3褐色	良好	織維含む	隆部に棒状工具によるキザミ目。 内ナテ。	早期条痕文系土器。
3	15	包含層-1	10	縄文深鉢 胴部	一括			10YR6/3にぶい黄褐色 10YR6/4にぶい黄褐色	良好	織維含む	下に縄文、他無文。 内ナテ。	早期条痕文系土器。
3	16	包含層-1	11	縄文深鉢 胴部	一括			10YR6/3にぶい黄褐色 10YR4/2灰黄褐色	良好	砂・織維含む	無文。 内ナテ。	早期条痕文系土器。
3	17	包含層-1	13	縄文深鉢 胴部	一括			10YR4/3にぶい黄褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	織維含む	無文。 内ナテ。	早期条痕文系土器。
3	18	包含層-1	2	縄文深鉢 口縁部	一括			7.5YR5/4にぶい褐色 10YR5/4にぶい黄褐色	良好	1mm大の 小石含む	爪形文。 内ナテ。	諸隣系土器。
3	19	包含層-1	5	弥生 口縁部	一括			10YR3/2黒褐色 10YR5/3にぶい黄褐色	良好	密	外折り返し口縁、口唇部指頭押捺波状文、口縁部ナテ。 内ナテ。	
3	20	包含層-1	12	縄文深鉢 胴部	一括			10YR5/4にぶい黄褐色	良好	織維含む	羽状縄文。 内ナテ。	阿玉台式土器。
4	1	SM-4	1	韓式土器注口付壺 口縁部欠	周溝底+10			10YR5/1黄灰色	良好	密	頸部粗い櫛掻き波状文、肩部二条の沈線の上部に棒状工具による平行沈線、胴部編席文による絞き後上位は回転ナテ、注ぎ部は盛り上がり、伸びる可能性あり。 口縁部欠	大阪府大阪城公園大手前地区出土の注口付壺と類似。

新遺構 番号	遺物 番号	旧遺構 番号	実測 番号	器種 遺存度	出土位置	法量(推定)cm 口径 底径 器高	(外)色調 (内)色調		焼成	胎土	特 徴	備 考
							(外)色調	(内)色調				
4	2	SM-4	3	須恵器壺 口縁1/8強	周溝底+23	(22.2)	10YR5/1黄灰色 10YR6/2灰黄色	外 内	密	口縁口整形、口唇部面取り、口唇部下に断面三角形の突起、突起の上下が沈線上に沈む、突起頸部に刻点文。 内ナデ。		
4	3	SM-4	2	須恵器平瓶 口縁完存・底部全欠	周溝底+21	7.2	10YR6/1黄灰色 10YR5/1黄灰色 5Y7/1灰色	外 内 内	密	口縁口整形、肩部上方別作りで貼り合わせる、口縁-頸部自然袖付着。 口縁口整形、肩部上方別作りで貼り合わせる、口縁-頸部自然袖付着。 口縁口整形、肩部上方別作りで貼り合わせる、口縁-頸部自然袖付着。 口縁口整形、肩部上方別作りで貼り合わせる、口縁-頸部自然袖付着。 口縁口整形、肩部上方別作りで貼り合わせる、口縁-頸部自然袖付着。		
4	4	SM-4	5	須恵器長頸壺 胴部1/4	周溝底+21		5Y7/1灰色	外 内	密	口縁口整形、胴部内面に自然袖付着。 口縁口整形、胴部内面に自然袖付着。 口縁口整形、胴部内面に自然袖付着。	東海産須恵器。	
4	5	SM-4	4	須恵器壺 底部完存	周溝底+27		2.5YR6/8褐色 10R4/8赤色	外 内	密	口縁口整形、底部内面に自然袖付着。 口縁口整形、底部内面に自然袖付着。 口縁口整形、底部内面に自然袖付着。		
4	6	SM-4	9	弥生壺 口縁1/4	一括		5Y6/1灰色	外 内	密	折り返し口縁、口唇部細線文、口唇部に2連一組の棒状浮文、下端に棒状工具によるキザ三目。 内ナデ。	内外面部ミガキによる赤彩。	
4	7	SM-4	6	須恵器壺 底部付近	周溝底+23		5Y6/1灰色	外 内	密	平行線文。 内ナデ。		
4	8	SM-4	18	縄文深鉢 胴部	一括		7.5YR5/4にぶい褐色	外 内	繊維含む	棒状工具による連続刺突文。 内ナデ。	早期系縄文系土器。	
4	9	SM-4	17	縄文深鉢 胴部	一括		7.5YR4/4褐 - 10YR4/2灰黄褐色	外 内	繊維含む	縄文文。 内ナデ。	早期系縄文系土器。	
4	10	SM-4	12	縄文深鉢 胴部	一括		5YR4/4にぶい赤褐色	外 内	繊維含む	縄文文。 内ナデ。	早期系縄文系土器。	
4	11	SM-4	13	縄文深鉢 胴部	一括		5YR4/4にぶい赤褐 - 10YR2/1黒色	外 内	繊維含む	縄文文。 内ナデ。	早期系縄文系土器。	
4	12	SM-4	14	縄文深鉢 胴部	一括		10YR2/2黒褐色	外 内	繊維含む	縄文文。 内ナデ。	早期系縄文系土器。	
4	13	SM-4	16	縄文深鉢 胴部	一括		10YR5/4にぶい黄褐色	外 内	繊維含む	縄文文。 内ナデ。	早期系縄文系土器。	
4	14	SM-4	15	縄文深鉢 胴部	一括		10YR3/3暗褐色	外 内	繊維含む	縄文文。 内ナデ。	早期系縄文系土器。	
4	15	SM-4	22	縄文深鉢 胴部	一括		7.5YR5/4にぶい褐色	外 内	密	2本の平行赤線文。 内ナデ。	加曽利B式土器。	
4	16	SM-4	21	縄文深鉢 胴部	一括		5YR4/6赤褐色	外 内	密	摩擦消耗しい。 内ナデ。	加曽利B式土器。	
4	17	SM-4	25	弥生甕 口縁部	一括		10YR2/2黒褐 - 10YR3/3暗褐色	外 内	密	口唇部指摺押捺痕状文、他ハケ。 内ナデ。		
4	18	SM-4	8	弥生甕 口縁部	一括		10YR4/3にぶい黄褐色	外 内	密	折り返し口縁、口唇部指摺押捺痕状文、他ハケ。 内ナデ。		
4	19	SM-4	10	弥生壺 口縁部	一括		2.5Y5/4黄褐色	外 内	砂粒含む	折り返し口縁、口唇部細線文。 内ナデ。		
4	20	SM-4	19	弥生鉢 胴部	一括		7.5YR4/3褐色	外 内	密	縄文文。 内ナデ。		
4	21	SM-4	11	弥生壺 胴部	一括		2.5Y6/4にぶい黄色	外 内	砂粒含む	羽状縄文。 内ナデ。		
5	1	SM-3	1	縄文深鉢 口縁部	一括		7.5YR6/4にぶい橙色	外 内	密	無文。 内ナデ。		
6	1	SI-1	1	弥生壺 口縁全欠 胴部-底部一部欠	床+3	6.2	7.5YR4/6にぶい褐色	外 内	密	籠ナデ、一部籠ミガキ。 内ナデ。	頸部輪槽みあり。	
6	2	SI-1	2-1-2	弥生壺 胴部	床+3		7.5YR5/4にぶい黄褐 - 2.5YR4/4にぶい赤褐色 7.5YR5/4にぶい黄褐 - 2.5YR4/4にぶい赤褐色	外 内	密	沈線帯内に羽状縄文、他籠ミガキ。 内ナデ。	外面施文以外赤彩・内面頸部赤彩。No.3・4と同一個体。	
6	3	SI-1	2-3	弥生壺 胴部	床直		7.5YR5/4にぶい黄褐 - 2.5YR4/4にぶい赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	外 内	密	沈線帯内に羽状縄文、他籠ミガキ。 内ナデ。	外面施文以外赤彩。No.2・4と同一個体。	
6	4	SI-1	2-4	弥生壺 胴部	床+1		7.5YR5/4にぶい黄褐 - 2.5YR4/4にぶい赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	外 内	密	沈線帯内に羽状縄文、他籠ミガキ。 内ナデ。	外面施文以外赤彩。No.2・3と同一個体。	
7	1	SS-1	1	弥生大型壺、口縁完存 胴部2/3残、底部全欠	周溝底+31	(78.0)	10YR7/4にぶい黄褐 - 10R4/4赤褐色	外 内	密	折り返し口縁、口唇部2連一組の棒状浮文、外ハケ所に張り付け斜溝、口唇部指摺押捺痕状文、他ハケ。 口唇部指摺押捺痕状文、他ハケ。 沈線帯内に羽状縄文、他籠ミガキ。 外面施文以外赤彩・内面口縁部赤彩。No.3・4と同一個体。	外面施文以外赤彩・内面口縁部赤彩。No.3・4と同一個体。 外面施文以外赤彩。No.2・4と同一個体。 外面施文以外赤彩。No.2・3と同一個体。	

新遺構 番号	遺物 番号	旧遺構 番号	実測 番号	器 種 遺存度	出土位置	法 量 (推定) cm		(外) 色調 (内) 色調		焼 成	胎 土	特 徴	備 考
						口径	底径 器高						
7	2	SS-1	2	縄文深鉢 口縁部	周溝底+23			7.5YR6/4にぶい橙色		良好	密	外 内 ナテ。 ナテ。	外面から穿孔を試みるが貫通 に至らない。
一括	1	縄文 包含層	2	須恵器甕 胴部	一括			N5/6灰色		良好	密	外 内 平行筋き、他回転漉き目。 青海成。	
一括	3	SD-3	2	縄文深鉢 胴部	一括			5YR5/4にぶい赤褐色		良好	密	外 内 縄文? ナテ?	前期縄文土器。
一括	4	SD-3	1	弥生甕 口縁部	一括			5YR4/1褐灰色		良好	密	外 内 口唇部指頭押捺文、他糸線状の筋ナテ。 ナテ。	

第4表 新殿古墳群出土金属器等観察表

新遺構番号	遺物番号	旧遺構番号	実測番号	種別・依存度	出土位置	法 量 (推定) cm/g			備 考	
						長さ	幅	厚さ(高さ) 重量		
1	50	SM-1	14	釘 1/2先端部のみ	一括	残長 5.5		最大 7	3.30	
一括	2	縄文包含層	3	貫永通宝	一括	2.40	2.35	1.3 ~ 1.5	4.30	

第5表 新殿古墳群出土石器等観察表

新遺構 番号	遺物番号	旧遺構 番号	実測 番号	種別・依存度	色調	出土位置	法量(推定)cm/g			備 考	
							長さ (径)	幅(孔)	厚さ (高さ)		重量
1	46	SM-1	9	磨石 完形	10YR6/4にぶい黄橙-2.5Y5/2暗灰黄色	一括	8.30	6.10	3.40	248.00	砂岩
1	47	SM-1	10	磨石 1/2	10YR6/3にぶい黄橙-10YR6/6明黄褐色	一括	4.80	5.30	3.40	140.00	石英斑岩
1	48	SM-1	11	石皿 -	10YR6/3にぶい黄橙色	一括	6.80	6.60	5.90	322.00	輝石安山岩
1	49	SM-1	12	石皿転用凹石 -	10YR6/4にぶい黄橙色	一括	4.60	4.70	4.00	152.00	輝石安山岩
1	51	SM-1	13	石鏃	5Y4/1灰色	一括	2.53	1.82	0.55	2.10	頁岩
2	17	SM-2	20	凹石 下端部欠	10YR6/4にぶい黄橙色	一括	6.30	4.90	3.20	100.00	輝石安山岩
2	18	SM-2	18	磨石・敲石 完形	5Y5/4オリーブ色	一括	9.40	5.30	4.00	300.00	砂岩
2	19	SM-2	17	磨石 1/2	5Y5/3灰オリーブ色	一括	7.00	6.00	2.10	160.00	砂岩
2	20	SM-2	21	石鏃	N1.5/0黒色	一括	1.62	1.75	0.50	1.00	黒曜石
2	21	SM-2	23	石鏃	N2/0黒色	一括	残長 1.85	1.78	0.50	1.40	黒曜石
2	22	SM-2	25	石鏃	2.5Y5/3黄褐色	一括	2.34	1.55	0.33	0.80	頁岩
2	23	SM-2	24	石鏃	2.5Y4/2暗灰黄色	一括	1.70	1.46	0.34	0.40	頁岩
3	21	包含層-1	22	磨石 完存	10YR5/3にぶい黄褐-10YR6/6明黄褐色	一括	162.00	45.00	29.00	98.30	輝石安山岩
3	22	包含層-1	23	砥石 -	7.5YR4/4褐色	一括	残長 36.00	48.00	26.00	67.10	流紋岩
4	22	SM-4	26	石鏃	N1.5/0黒色	一括	2.96	2.40	1.00	6.20	黒曜石
4	23	SM-4	28	石鏃	5Y4/2灰オリーブ色	一括	2.10	1.56	0.38	0.90	頁岩
4	24	SM-4	27	石鏃	N2/0黒色	一括	2.51	1.76	0.60	1.80	黒曜石
一括	5	SD-5	1	磨石 完形	2.5Y5/2暗灰黄色	一括	8.35	4.60	4.00	261.00	砂岩
一括	6	縄文包含層	4	石鏃	10YR4/2灰黄褐色	縄文包含層一括	1.60	1.26	0.42	0.30	黒曜石
一括	7	SD-6	1	石匙	2.5YR6/1赤灰色	一括	2.72	3.33	0.92	6.30	頁岩

写真図版



新殿古墳群作業風景



1号前方部前面周溝検出状況(南より)



1号前方部前面周溝完掘状況(西より)



1号AA'土層断面(南より)



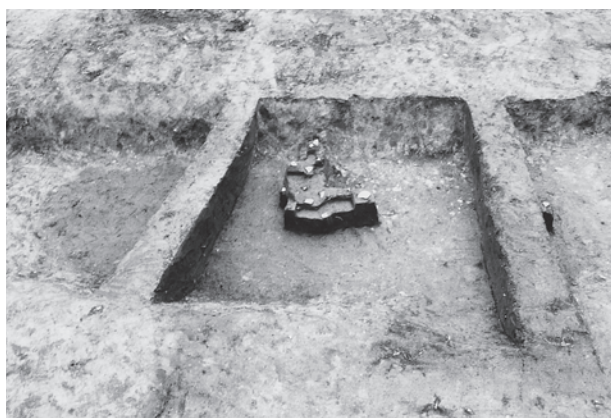
1号遺物出土状況(東より)



2号墳全景(東より)



2号AA'土層断面(南より)



2号周溝内土壌検出状況及び遺物出土状況(南より)



2号周溝内土壌遺物出土状況拡大(南より)



4号南側周溝遺物出土状況1 (東より)



4号平瓶口縁部出土状況2 (南より)



4号韓式系土器注口付壺出土状況拡大 (南西より)



5号南側周溝BB' 土層断面 (南より)



4号遺構完掘状況 (東より)



5号東側周溝完掘状況 (西より)



5号遺構AA' 土層断面 (西より)



4・6号遺物出土状況（南より）



6号遺物出土状況1（南より）



6号遺物出土状況2（南より）



作業風景（東より）



7号方形周溝墓遺物出土状況1（北より）



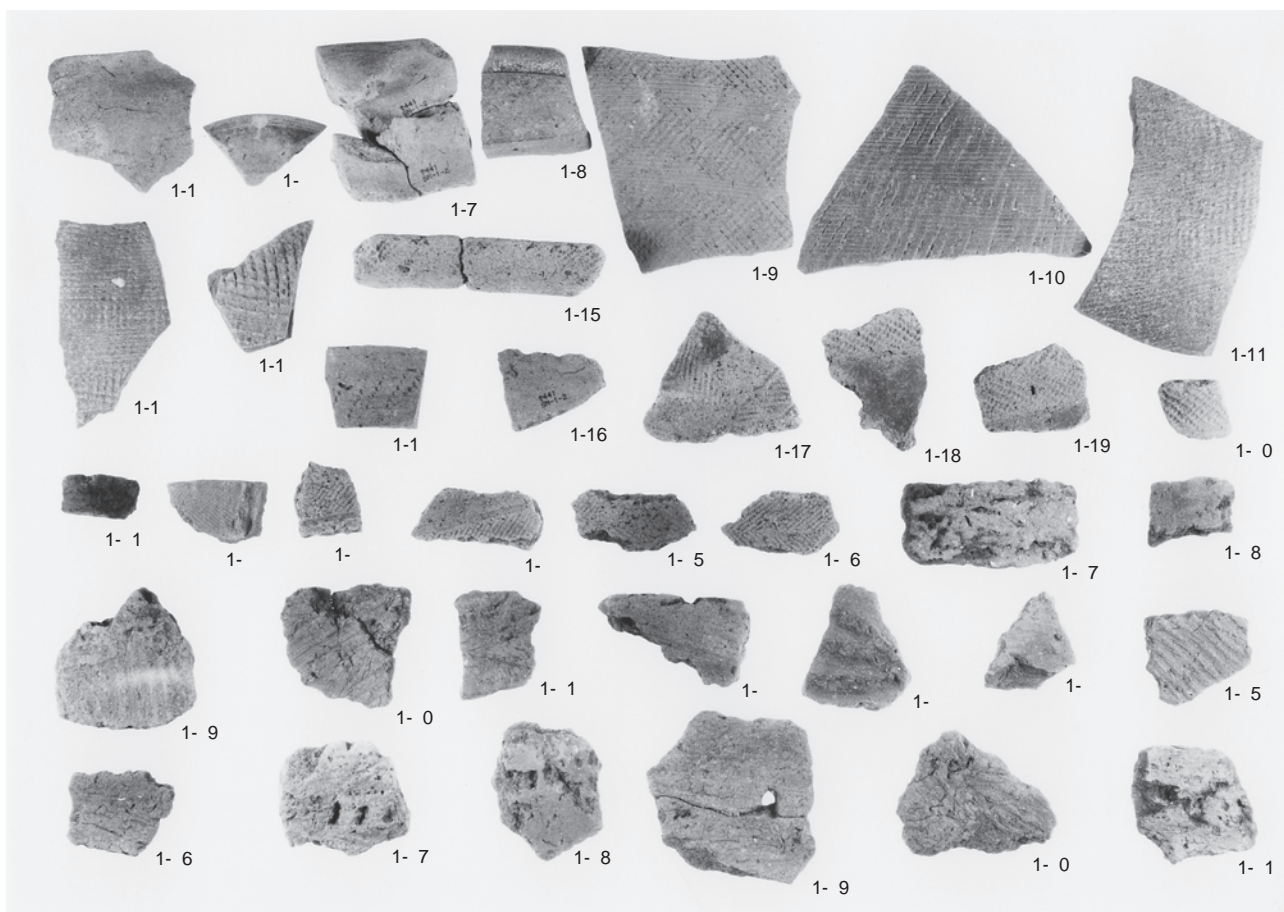
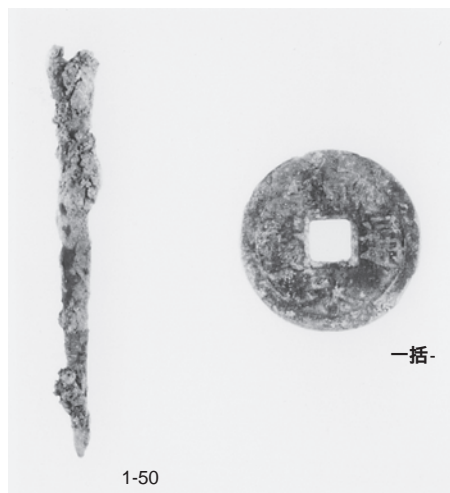
7号方形周溝墓遺物出土状況2（北より）

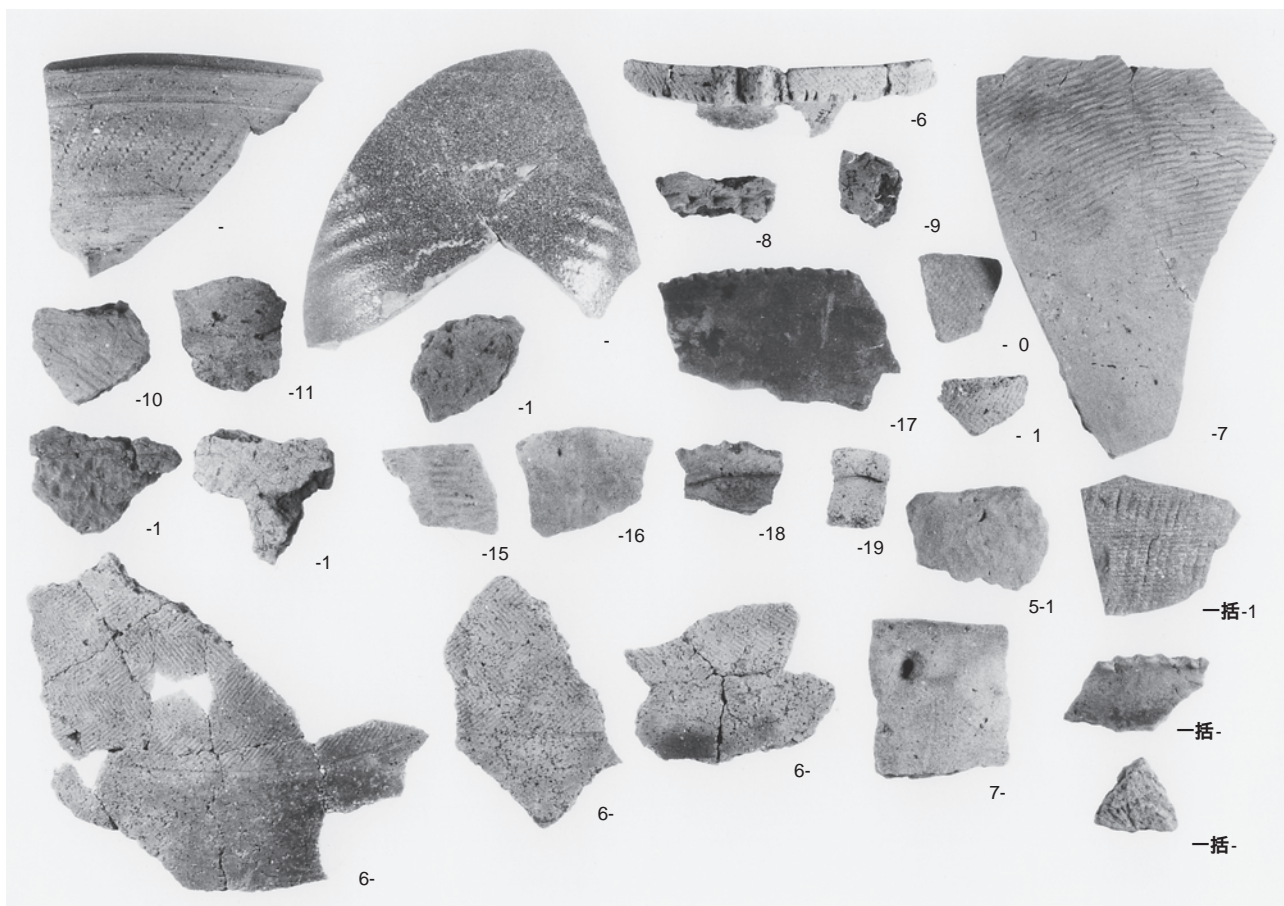
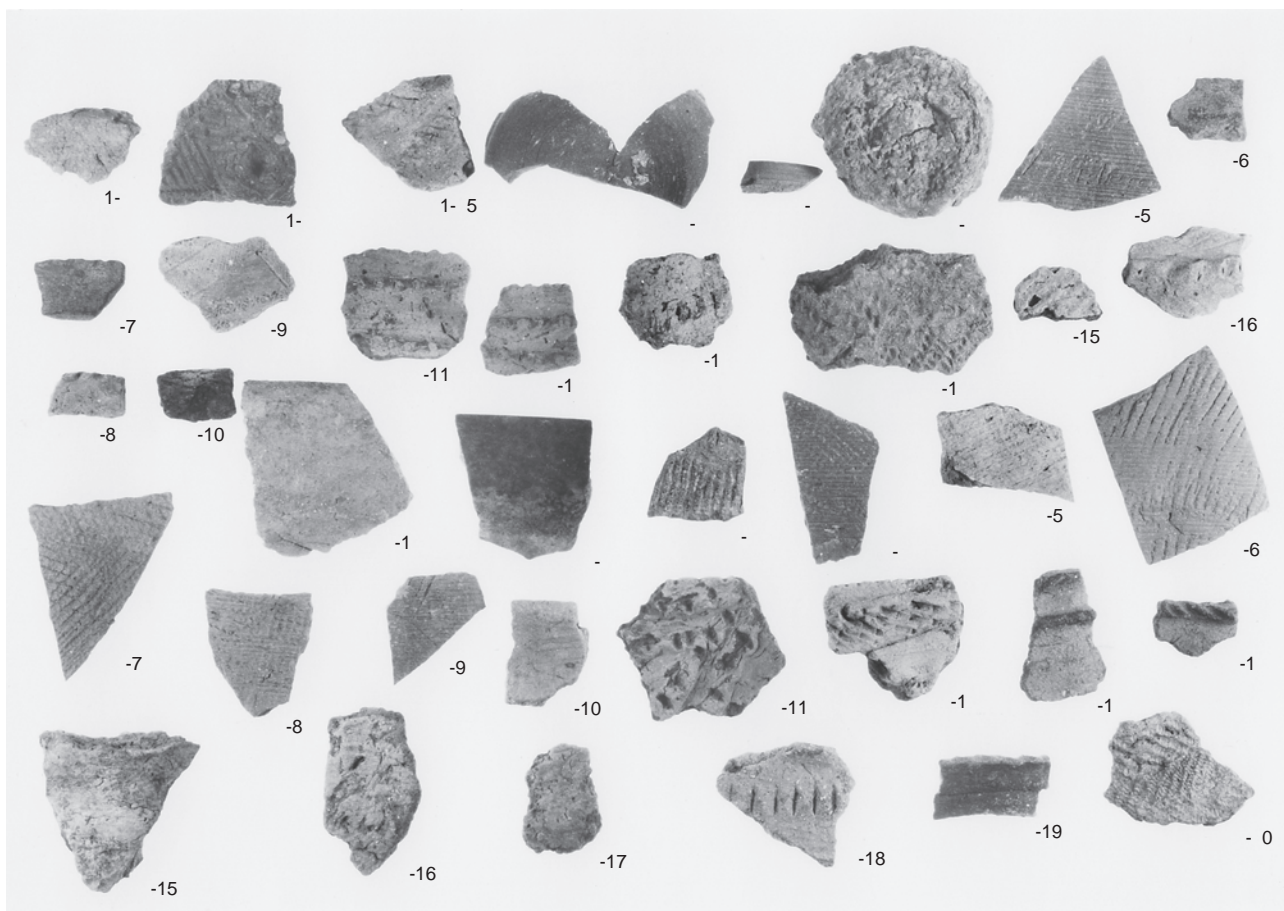


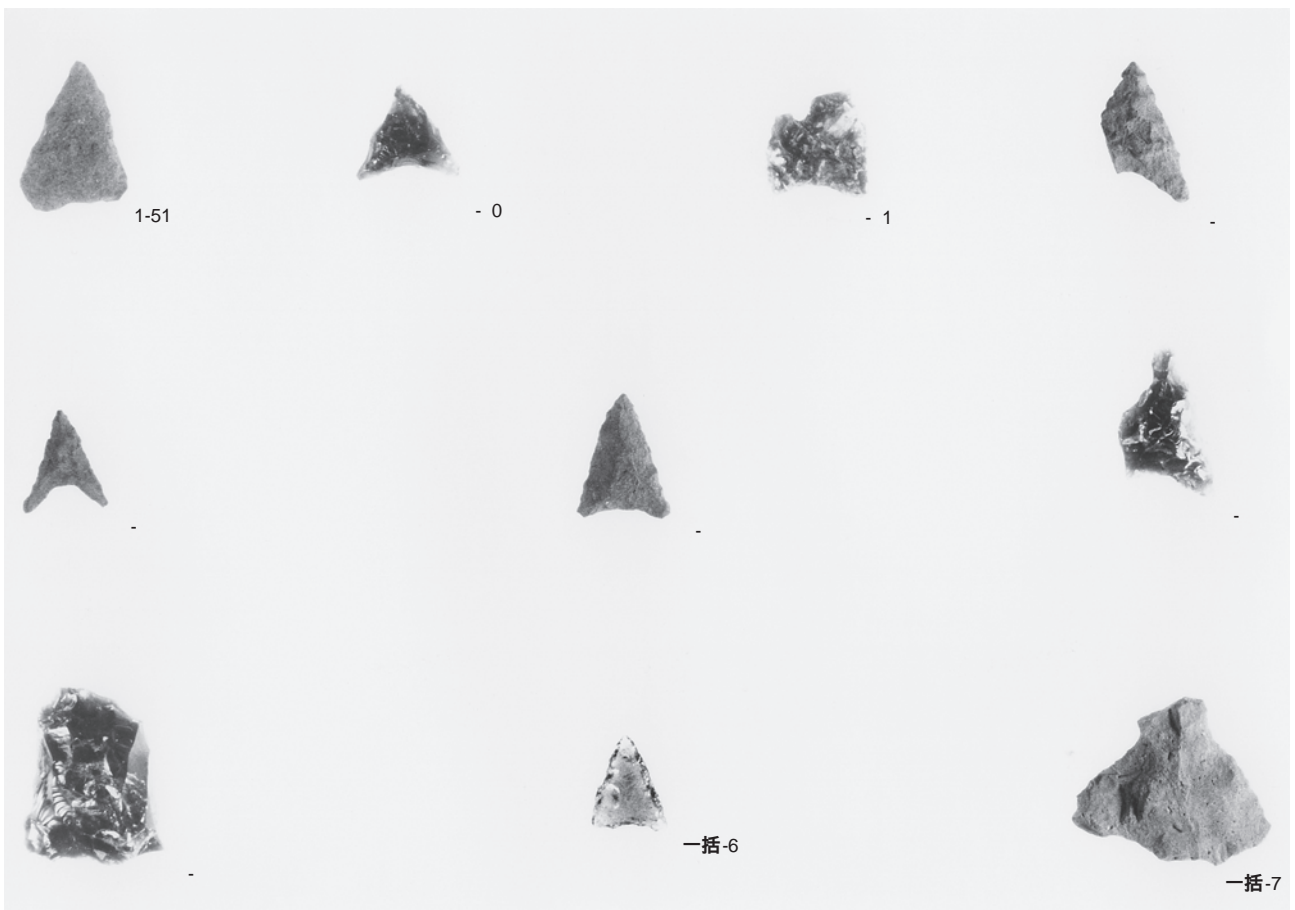
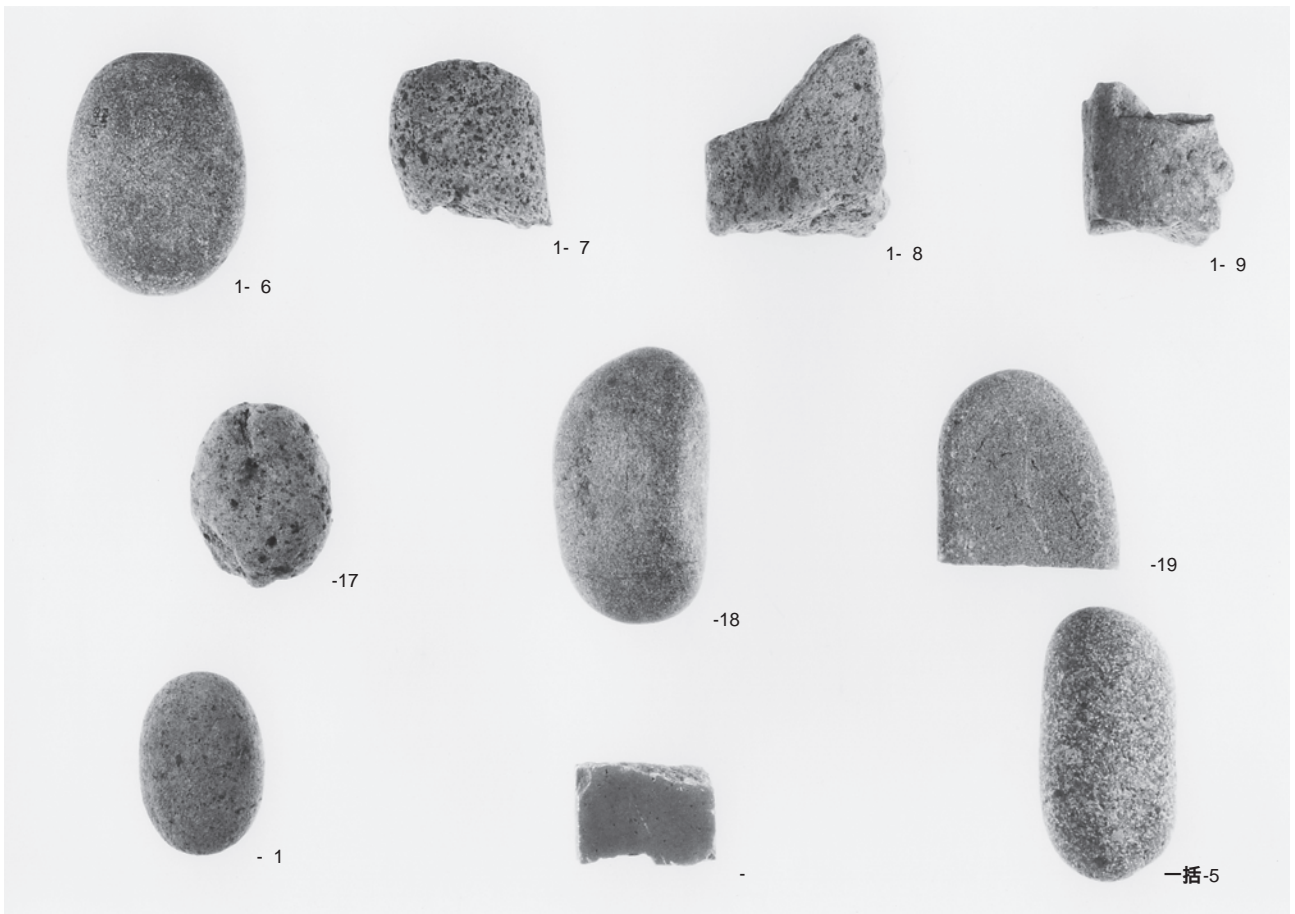
7号方形周溝墓遺物出土状況3（北より）



7号方形周溝墓遺物完掘状況（東より）







報告書抄録

ふりがな	いちはらししんでんこふんぐん							
書名	市原市新殿古墳群							
副書名								
巻次								
シリーズ名	市原市埋蔵文化財センター - 調査報告書							
シリーズ番号	第13集							
編著者名	木對和紀							
編集機関	市原市教育委員会							
所在地	〒290 - 0011 千葉県市原市能満1489番地 0436 (41) 9000							
発行年月日	2010年2月17日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 (世界測地系)	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いちはらししんでんこふんぐん 市原市新殿古墳群	ちばけんいちはらしあまありき 千葉県市原市海土有木 あざしばのう 字司馬農1668-2他	12219	セ - 441	35° 28 35	138° 47 20	20080818 ~ 20080912	1,120m ²	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
新殿古墳群	墳墓	弥生中～後期 古墳終末期	竪穴住居跡 1軒 方形周溝墓 1基 円墳 1基 方墳 2基 前方後円墳 1基	縄文土器（早期～前期・中期・後期） 弥生土器（中期～後期） 土師器・須恵器（古墳） 石器（縄文石鏃など） 鉄製品（釘） 古銭		新発見の4号遺構（方墳）より、縄蓆文が施された韓式系土器注口付き壺が検出された。		
要約	古墳時代終末期の前方後円墳1基・円墳1基・方墳2基の一部、及び弥生時代中期末葉の方形周溝墓と住居跡の一部の調査。							

市原市埋蔵文化財調査センター - 調査報告書第13集

市原市新殿古墳群（司馬農地区）

平成22年2月15日 印刷

平成22年2月17日 発行

編集 市原市埋蔵文化財調査センター

発行 株式会社ライフ
市原市教育委員会
(市原市埋蔵文化財調査センター)
〒290-0011 千葉県市原市能満1489番地
TEL 0436-41-9000

印刷 株式会社 正文社
〒260-0001 千葉市中央区都町1丁目10番6号
TEL 043-233-2235